

Network Camera

オンラインヘルプ

QNE-C8013RL/C9013RL

ライブ画面

カメラで撮影しているライブ映像を確認したり、画面キャプチャー等の様々な機能を制御することができます。画面上の  ボタンをクリックすると、ライブ画面が表示されます。

上のボタンをクリックすると、ライブ画面や再生画面、設定画面に移動することができます。

- (ライブ): カメラで撮影中のライブ画面を確認して、様々なカメラ機能を制御することができます。
- ▶(再生): SDカードまたはNASに録画しておいた映像を検索して再生することができます。
- ⚙(設定): カメラの詳細設定を変更することができます。

i 参考事項

- ライブページの右上にあるアイコン  をクリックすると、接続したIPアドレスや認証状況を確認することができます。認証に成功した場合には緑のアイコン、失敗した場合には赤のアイコンに表示されます。また、HTTPに接続して該当事項がない場合にはダッシュ(-)に表示されます。
- Chromeでウェブビューアに接続すると、再生画面の機能を最も安定した状態で使用することができます。
- ライブページで映像を再生する場合、下記の条件で画面に残像が表示されることがあります。
 - プロファイルを変更するときに解像度が変わる場合
 - プロファイルを変更するときにネットワーク遅延発生でデータ受信が遅れる場合
 - ウェブブラウザのサイズ変更&位置を移動する場合

アイコン

ライブ画面の下にあるアイコンは下記の機能をします。

特定ブラウザまたはCodecでは一部の機能が動作しない場合があります。

アイコン	機能説明
 DetectionShot	DetectionShotは、検知した対象物(人、顔、車両、ナンバープレート)の情報を分析し、最も信頼できる時点の全体イメージを生成します。 [Ctrl+Alt+S]キーを押すと、DetectionShotパネルが表示され、DetectionShotイメージが確認できます。 DetectionShotパネルに表示する対象物のタイプは、[設定]>[分析]>[対象物検知]>[DetectionShot]から選択できます。
 <u>ビデオ設定</u>	現在のライブ画面に適用されたプロファイルを確認したり、プロファイルを変更することができます。また、ライブ画面のディスプレイ設定を変更することができます。

アイコン	機能説明
+ PTZ	カメラのパン/チルト/ズーム動作をデジタルに制御することができます。
① ステータス	プロフィールごとに接続情報や現在カメラに接続したユーザーの情報を確認することができます。
オーバーレイ	カメラが対象物を検知するとき、映像画面に表示する対象物タイプを選択できます。 AIカメラの対象物分析アルゴリズムが動作する場合のみ、検知した対象物が映像画面に表示され、AIアルゴリズムが動作するには対象物検知、IVA、人数カウント、キュー管理、ヒートマップ中の一つの機能が有効である必要があります。
プライバシーエリア	プライバシー領域設定が開きます。プライバシー領域機能の使用状況の設定や、プライバシー領域を指定するなど、プライバシー領域に関する詳細機能を制御できます。プライバシー領域機能の詳細説明は、[設定]>[ビデオ&オーディオ]>[ビデオ設定]を参照してください。
全画面 サイズオプション	ライブ画面を全画面に表示することができます。元のウェブブラウザのサイズに戻るためには、全画面モードで ボタンをもう一度クリックするかキーボードの[ESC]キーを押します。 一度クリックするたびに、下記のモードに変更されます。 (適合)：カメラ映像をウェブブラウザのサイズに合わせて表示します。 (オリジナルサイズ)：カメラ映像の実際解像度サイズに表示します。 (アスペクト比)：カメラ映像解像度の縦横比を維持したままライブ画面をズームインまたはズームアウトしてウェブブラウザのサイズに表示します。

アイコン	機能説明
 キャプチャー	ライブ画面をキャプチャーしてPNG画像ファイルに保存することができます。キャプチャーした画像ファイルは、各ブラウザのデフォルト保存パスに保存されます。
 録画	ライブ画面を手動で録画してPCに保存することができます。保存ボタンをクリックして録画を開始し、もう一度クリックすると録画を止めます。録画ファイルは.aviタイプで保存することができます。ブラウザによってブラウザのデフォルト保存パスに保存されるか別名で保存からファイルパスを設定することができます。 録画映像にパスワードを設定するには、録画映像ファイルタイプリストでZIPを選択した後、パスワードを入力します。ダウンロードした映像を再生するときに、設定したパスワードを入力してから映像を再生することができます。 録画映像のパスワード設定機能は、一部カメラモデルでは対応していません。
 ピクセル数	ライブ画面でマウスで選択した領域の水平/垂直ピクセル数を確認できます。ピクセル数ボタンをクリックした後、エリアをマウスでクリックしてドラッグします。選択したエリアが表示され、映像のピクセル数が表示されます。ピクセル数ボタンをもう一度クリックすると、ピクセル数機能を終了します。

映像をキャプチャーするには、

- キャプチャーするシーンでキャプチャーアイコン()をクリックします。
- キャプチャーを保存すると、通知メッセージが表示されます。各ブラウザの保存パスにキャプチャー画像を保存します。

映像を録画するには、

- 保存アイコン()をクリックします。
 - 手動録画を終了するには、もう一保存アイコン()をクリックします。
- ユーザーPCに手動録画を.aviファイルで保存することができます。パスを指定して映像を保存してください。
- 録画した映像にパスワードを設定するには、
- 録画タイプをZIPに選択した後、“REC”アイコンをクリックすると、パスワードが設定できます。

ユーザーPCに録画したファイルが.zipファイルに保存され、映像を再生するときに設定したパスワード入力する必要があります。(録画映像のパスワード設定機能は、一部カメラモデルでは対応していません。)

全画面に切換するには、

- 全画面アイコン(⏏)を選択します。ビューア画面が全画面に変更されます。
- 全画面モードを終了するには、もう一度全画面アイコン(⏏)をクリックするかキーボードの[Esc]キーをクリックします。

ピクセル数をカウントするには、

- ピクセル数アイコン(📏)をクリックします。
- 映像上でマウスをドラッグしながら領域を設定します。該当領域の水平/垂直ピクセル数が画面に表示されます。

ビデオ設定

プロファイル

現在のライブ画面に適用されたビデオプロファイル名とインフォメーションが表示されます。[Profile]ドロップダウンボタンを押すと、現在のWebviewerで使用できるビデオプロファイルリストが表示され、適用したいビデオプロファイルを選択すると、ライブ画面にすぐ適用されます。選択したビデオプロファイルの解像度、Codec、フレームレート、ターゲットビットレートを確認することができます。

表示

ライブ画面のコントラスト、シャープネスを設定することができます。設定値を入力すると、ライブ画面にすぐ適用されます。⌂ボタンをクリックすると、設定したすべての値が初期化されます。

PTZ

カメラのパン/チルト/ズーム動作を制御したり、すでに設定したPTZプリセット位置に移動することができ、グループ動作を制御することができます。

参考事項

- PTZ制御画面で➕ボタンをクリックしてカメラの映像をズームインした後、➖ボタンをクリックしてからドラッグしてカメラビューを調整します。
- 映像画面の中央に、[+]及び8つの方向表示が表示されます。[+]表示でマウスをドラッグすると、ドラッグする方向へ移動します。また、方向表示をクリックすると、選択した方向にファンとチルトが移動します。

プリセット

プリセットリストでプリセットを選択した後、[移動]ボタンをクリックすると、お望みのプリセット位置に移動します。

プリセット位置を設定するには、PTZ制御画面で➕アイコンをクリックしてカメラビュー位置を調整した後、[設定]ボタンをクリックします。[名前]と[番号]フィールドにプリセット名と番号をそれぞれ設定した後、[適用]ボタンをクリックします。

[ホーム]ボタンをクリックすると、カメラビューがホーム位置に移動します。ホーム位置は[設定]>[PTZ]>[デジタルPTZ]>[プリセット]タブで設定することができます。

グループ

グループリストでグループNo.を選択した後、[開始]ボタンをクリックすると、設定したグループ動作を行います。グループ動作を中止するには、[中止]ボタンをクリックします。グループリストは、[設定]>[PTZ]>[デジタルPTZ]>[グループ]タブで追加したり変更することができます。

ステータス

プロフィール接続情報

現在、設定されたすべてのプロフィールのアクセス状況を確認したり、アクセス中の現在ユーザーの状況を確認することができます。

接続ユーザー情報

現在、カメラにアクセスしたすべてのユーザーのユーザー別に適用したプロフィール、ビットレート(kbps)、ネットワーク接続ステータス、IPアドレスを確認することができます。

再生

SDカード（もしくはマイクロSDカード）またはNASに保存された録画映像を読み込んで再生することができます。

画面上の  ボタンをクリックすると、録画面が表示されます。再生画面の下にタイムバーが表示され、設定したスケジュールで録画された映像やイベントによって録画された映像がタイムバーに表示されます。録画映像をイベント種類や日付別に検索することができ、キャプチャーしたりPCに保存することができます。

上のボタンをクリックすると、ライブ画面や再生画面、設定画面に移動することができます。

-  (ライブ)：カメラで撮影中のライブ映像を確認して、様々なカメラ機能を制御することができます。
-  (再生)：SDカード（もしくはマイクロSDカード）またはNASに録画しておいた映像を検索して再生することができます。
-  (設定)：カメラの詳細設定を変更することができます。

参考事項

- 映像を再生するには、先に[ライブ]ページで映像を録画 (Monitoring.html#record)する必要があります。
- Chromeでウェブビューアに接続すると、再生画面の機能を最も安定した状態で使用することができます。

再生アイコン

再生画面の下にあるアイコンは下記の機能をします。

アイコン	機能説明
 全画面	再生画面を全画面に表示することができます。元のウェブブラウザのサイズに戻るためには、全画面モードで  ボタンをもう一度クリックするかキーボードの[ESC]キーを押します。
サイズオプション	• 一度クリックするたびに、下記のモードに変更されます。  (適合)：カメラ映像をウェブブラウザのサイズに合わせて表示します。  (オリジナルサイズ)：カメラ映像の実際解像度サイズに表示します。  (アスペクト比)：カメラ映像解像度の縦横比を維持したまま再生画面をズームインまたはズームアウトしてウェブブラウザのサイズに表示します。

アイコン	機能説明
 キャプチャー	録画映像をキャプチャーしてPNG画像ファイルに保存することができます。キャプチャーした画像ファイルは、各ブラウザのデフォルト保存パスに保存されます。
 前へ	前のフレームに移動します。
 再生/一時停止	映像を再生したり一時停止します。
 次へ	次のフレームに移動します。
再生速度	再生画面の再生速度を設定します。

イベントで検索して録画映像を再生する イベントタイプ別に録画映像を検索することができます。またカメラシステムの時間を調整して重複時間が発生した場合、重複時間に保存された映像も検索することができます。

イベントで検索して再生するには、

1. 再生画面で表示ボタンをクリックします。検索当日に録画された映像がある場合、タイムバーに表示されます。
2. イベント種類別に検索するには、タイムバーの上にある[全体] ボタンをクリックした後、お望みのイベントを選択します。
3. 重複時間に保存された映像を検索するには、重複したセクションを選択します。
4. [OK]ボタンをクリックします。検索されたイベントがタイムバーに表示されます。
5. 再生ボタンをクリックします。
6. 再生を中止するには、一時停止ボタンをクリックします。

時間で検索して録画映像を再生する カレンダーで時間を選択して録画映像を検索することができます。タイムバーの上にある[本日]ボタンをクリックすると、本日の日付を基準に録画映像を検索します。

時間で検索して再生するには、

1. 再生画面で表示ボタンをクリックします。検索当日に録画された映像がある場合、タイムバーに表示されます。
2. タイムバーの上にある日付をクリックした後、カレンダーでお望みの日付を選択して、開始時間と終了時間を設定します。
 - [全日]を選択すると、開始時間と終了時間が00:00:00から23:59:59に自動設定されます。
3. [適用]ボタンをクリックします。

4. 再生ボタンをクリックします。選択した時間の映像が再生されます。
 - 映像が再生中の場合、現在再生されている映像の録画時間が表示されます。
 - 映像を前、後に探索して再生速度を調整することができます。
 - 左側の矢印ボタンをクリックすると1フレーム前に移動し、右側の矢印ボタンをクリックすると1フレーム後に移動します。
 - 倍速ボタンをクリックすると1x、2x、4x、8xまたは-1x、-2x、-4x、-8xに速度を選択することができます。倍速変更で再生速度を設定することができます。
 - タイムバーでボタンの位置を動かすと、お望みの時間の映像を再生することができます。

録画映像を保存する 録画された映像をファイルで保存することができます。

映像を保存するには

1. [エクスポート]ボタンをクリックします。
2. [時間]で保存する映像の開始時刻と終了時刻を設定します。
3. [タイプ]でファイルタイプを選択します。
 - AVI：.aviタイプに保存します。
 - ZIP：.zipタイプに保存します。パスワードを設定できます。映像を再生するためには、圧縮を解除する時に設定したパスワードを入力しなければ、圧縮を解除することができません。(録画映像のパスワード設定機能は、一部カメラモデルでは対応していません。)
4. [OK]ボタンをクリックします。

ビデオプロフィール

ビデオプロフィールを追加したり削除してプロフィール設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むプロフィールに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

ビデオプロフィール接続ポリシー

プロフィール設定が変更された時、既存のプロファイルに映像を出力し続けるか変更されたプロフィールに映像を出力し続けるかを設定することができます。

[プロフィールの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、プロフィール設定を変更しても既存のプロファイル設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたプロフィールに映像を出力します。[プロフィールの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、プロフィール設定を変更した時にすぐ変更されたプロフィールに映像が出力されます。

ビデオプロフィール

製品の使用環境と状況によってビデオのプロファイルを選択することができます。初期値に提供されるプロフィールの他に新しいプロフィールを追加したり削除することができます。プロフィール別にCodec、プロフィールタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるプロフィールのリストとユーザーが追加したプロフィールのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。プロフィールリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにプロフィール名を入力します。プロフィールリストに入力した名前が表示されます。
3. [コーデック]、[プロフィールタイプ]、[解像度]など、プロフィールの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいプロフィールが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. プロフィールリストで詳細設定を変更するプロフィールを選択します。
2. [コーデック]、[プロフィールタイプ]、[解像度]など、プロフィールの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したプロフィールの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. プロファイルリストで削除するプロファイルを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したプロファイルが削除されます。

名前

プロファイルリストで選択したプロファイル名が表示されます。新規でプロファイルを作成する時、プロファイル名を入力することができます。

コーデック

プロファイルに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、プロファイル設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するプロファイルタイプを選択します。選択したプロファイルタイプは、プロファイルリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。プロファイルリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- Eメール/FTPプロファイル：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。プロファイルリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。[コーデック]を「MJPEG」に設定した場合のみ、E-mail/FTPプロファイルオプションが表示されます。
- エッジ録画プロファイル：(micro)SDカードまたはNASに映像を録画する時、適用するプロファイルです。プロファイルリストの[タイプ]カラムに「Record」と表示されます。
- デジタルPTZプロファイル：PTZモーションをデジタルに制御する時、使用するプロファイルです。Profileリストの[タイプ]カラムに「DPTZ」と表示されます。[コーデック]をH.264もしくはH.265に設定した場合のみ、デジタルPTZプロファイルオプションが表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するプロファイルです。プロファイルリストの[タイプ]に「FrameLock」と表示されます。[コーデック]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

プロファイル設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。

[ビデオ&オーディオ]>[カメラ設定]>[センサー]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御方法]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御方法]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[コーデック]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御方法

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすく、安定的にシステムを運用することができます。
- VBR：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながらストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

映像圧縮

映像の圧縮レベルを設定します。[プロファイル設定]の[圧縮]CBRの場合、エンコーディング優先順位を決める機能であり、該当機能はVBR動作で映像の圧縮率による画質&伝送データ量に影響を与える機能です。

[映像圧縮]に高い値を設定するほど、映像の圧縮率は上がります。映像の圧縮率が上昇すると、映像伝送データ量は減少するが映像の画質が低下することがあります。[映像圧縮]に低い値を設定して映像の圧縮率を下げると、映像画質は改善されても伝送データ量が増加することがあります。プロファイルの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[映像圧縮]は[ビットレート制御方法]を[VBR]に設定した場合のみ有効となります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質中に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。

Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなることがあります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になることがあります。Profileの[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御方法]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[プロファイル設定]の[フレームレート]によって異なります。

エッジ録画プロファイルでGOV長さは、フレームレートの半分に固定されます。

プロファイル

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。Hanwha Visionのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。

CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC：圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。
- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低いが、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

スマートコーデック

スマートコーデックの使用有無を設定します。スマートコーデックは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすHanwha Visionの独自技術です。スマートコーデックは[ビットレート制御方法]が[CBR]の時のみ有効になります。

スマートコーデックのROI領域は、[ビデオ&オーディオ]>[スマートコーデック]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像ではGOVが[ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、その直後に1フレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVが[GOV長]の設定値に動作することになります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は[プロファイル設定]の[フレームレート]によって異なります。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[ビデオ&オーディオ]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。
- ダイナミックGOVは[ビットレート制御方法]を[VBR]に設定した場合のみ有効になります。[プロファイルタイプ]を[エッジ録画プロファイル]に設定した場合は、ダイナミックGOVを使用できません。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。

ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。フレームレート値が1のときは[最小FPS]のオプションが表示されません。

i 参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[ビデオ&オーディオ]>[ワイズストリーム]メニューで設定することができます。
- ダイナミックFPSは[コーデック]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御方法]が[VBR]の時のみ有効になります。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol) プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストIPアドレスの範囲は、224.0.0.0から239.255.255.254までに設定できます。但し、端に255は使用できません。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

ユーザー

カメラにアクセスするユーザーのアカウントを管理します。マネージャのパスワードを変更することができ、ゲスト設定、認証設定、現在のユーザー設定が可能です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

管理者情報の変更

マネージャアカウントのIDとパスワードを変更することができます。セキュリティを強化するためにローマ字の大文字&小文字、数字、特殊文字などを様々に組み合わせパスワードを生成してください。

ID

現在、使用中のマネージャIDを確認したり変更することができます。

参考事項

- マネージャIDは、英数字のみ入力することができます。また、最大8文字まで入力できます。
- マネージャIDで基本ゲストIDの「guest」や基本ユーザーIDの「user1」、「user2」...「user10」は使用できません。

現在のパスワード

現在、使用中のパスワードを入力します。管理者のパスワードが誤って変更されないように、現在の管理者パスワードを入力してから新しい管理者パスワードを入力します。

新しいパスワード

新しく使用するパスワードを入力します。

新しいパスワード(確認)

新しく使用するパスワードを間違えて入力した場合のために確認する手順です。新しいパスワードをもう一度入力します。

参考事項

- パスワードは3カ月周期で変更することをお勧めします。
- パスワードの制限は次のとおりです。
 - 出荷条件初期化後、マネージャ&ユーザーのパスワードはすべて初期化されるため、パスワードを再設定する必要があります。
 - カメラ・ウェブビューアーに初アクセスしたり初期化後にアクセスする場合、パスワード設定メニューに移動します。
 - パスワード変更メニューで新しいパスワードを設定し、変更されたパスワードでウェブビューアーに再ログインしてからウェブビューアーメニューを使用することができます。

- マネージャのパスワードを変更する時、既存のパスワードが一致しないと、パスワードを変更することができません。
- パスワードを変更した後、CMSやNVRのようなクライアントにアクセスされたカメラがある場合、変更されたパスワードで再登録してから使用する必要があります。既存のアクセスを維持すると、クライアントで前のパスワードを用いて認証するため、該当アカウントがロックされる場合があります。
- ウェブビューアーにログインする時、パスワード認証失敗を5回超過すると30秒間ロックされウェブビューアーにアクセスできなくなります。
- 同じIDで数カ所からアクセスしたり、複数のインターネットブラウザを開いたままパスワードを変更すると、インターネットブラウザが誤動作することがあります。パスワードを変更する時には、一カ所でアクセスしたり一つのインターネットブラウザのみを使用して変更することをお勧めします。

ゲスト設定

[ゲストアクセス許可]を選択すると、ウェブビューアー画面にゲストがアクセスすることができます。ゲストアカウントにアクセスすると、ウェブビューアーでライブ画面しか確認することができません。ゲストIDとパスワードは「guest/guest」で変更できません。

認証設定

[認証されていないRTSPへの接続許可]を選択すると、RTSP (Real Time Streaming Protocol)を用いてカメラ映像にアクセスする時、認証なしでアクセスすることができます。

接続ユーザー情報

管理者の他にユーザーアカウントのアクセス情報を設定して音声入力、音声出力、アラーム出力、プロファイルなどの使用権限を設定することができます。登録したユーザーがログインした時、ユーザーごとに設定された機能のみ有効になります。初期値に10つの現在のユーザーアカウントが設定されており、アカウントを追加したり削除することができます。現在のユーザーアカウントは最大10つまで使用することができます。

参考事項

- 設定されたユーザーの中でONVIFを使用するためのアカウントに設定したい場合、設定された権限によって機能使用が制限されます。

使用

選択したユーザーアカウントを有効にするには、チェックボックスを選択します。

名前

IDを入力します。

パスワード

パスワードを入力します。パスワード設定規則は、管理者パスワードの設定規則と同一です。

管理者権限

選択したユーザーに管理者権限を与えます。一般ユーザーは、管理者が許可した機能のみ有効になるが、管理者はすべての機能を使用して設定する権限があります。但し、ユーザーが管理者権限を与えられても管理者IDとパスワードを変更することはできません。

プロフィール設定

選択したユーザーにビデオプロフィールの詳細設定を制御できる権限を付与します。

ビデオ設定

選択したユーザーにビデオ出力の詳細設定を制御できる権限を付与します。

カメラ設定

選択したユーザーにカメラ映像の詳細設定を制御できる権限を付与します。

プロフィールアクセス

[初期値]に設定すると、基本プロフィールでのみ映像を確認することができ、[全体]に設定するとすべてのプロフィールで映像を確認することができます。

再生

選択したユーザーに録画された画像を検索して再生する権限を付与します。再生権限を持つユーザーがWebビューアにアクセスすると、上部に▶(再生)アイコンが有効になります。

現在のユーザー入力

1. 使用する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。現在のユーザーアカウントが入力できる状況に変更されます。
2. [使用]カラムでチェックボックスをチェックします。
3. [名前]と[パスワード]カラムにIDとパスワードを入力します。
4. [オーディオ入力]、[オーディオ出力]、[アラーム出力]カラムで許可する機能をそれぞれ選択して[Profile]カラムで許可するプロフィールタイプを選択します。(一部カメラでは[オーディオ入力]、[オーディオ出力]、[アラーム出力]に対する設定機能に対応しません。)
5. 現在のユーザーアカウントの入力を完了したら、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
6. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- 現在のユーザーアカウントが10つ未満の場合、[追加]ボタンをクリックして現在のユーザーアカウントを追加することができます。

現在のユーザー修正

1. 修正する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。

2. 機能設定を変更した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。変更された現在のユーザー情報が保存されます。

現在のユーザー削除

1. 削除する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択した後、[削除]ボタンをクリックします。
 2. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
 3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択した現在のユーザー情報が削除されます。
-

日付 & 時間

カメラの現在システム時間を確認してタイムゾーンによって時間設定を変更したり、PC時間またはNTPサーバーと同期化してシステム時間を設定することができます。

現在のシステム時間

カメラのシステム時間が表示されます。既存に設定しておいたシステム時間が表示されます。

タイムゾーン

カメラの時間をグリニッジ標準時(GMT)を基準に設定します。

タイムゾーン

お望みのタイムゾーンを選択して真下の[適用]ボタンをクリックします。

サマータイム

サマータイムを使う地域を選択する場合には、[サマータイム]メニューが表示されます。選択したタイムゾーンのサマータイム開始時間と終了時間が表示されます。[サマータイム]を[有効]に選択すると、該当地域のグリニッジ標準時より一時間早い時間に表示されます。

参考事項

- [サマータイム]が[有効]に設定された場合のみ、[再生]画面のタイムラインにサマータイムが適用された時間が表示されます。
- ユーザーのPC時間がサマータイムを自動的に適用するよう設定されている場合、カメラのウェブビューアーの[サマータイム]は自動的に[有効]と選択され、ユーザーが任意に変更することができません。

システム時間設定

カメラの時間をユーザーが手動で設定したり、NTPサーバーと同期化して設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

手動

カメラの現在時間をユーザーが任意で入力したり、現在使用中のPC時間と同期化することができます。

- [年-月-日]と[時:分:秒]で任意に時間を入力してシステム時間を設定します。
- [PCウェブビューアと同期化]を選択すると、PC viewerの時間とシステム時間が同期化されます。[PCウェブビューアと同期化]を選択した場合、PCとカメラ両

方ともタイムゾーンをそれぞれ設定する必要があります。

NTPサーバーと同期化

NTP (Network Time Protocol)サーバーの時間とシステムの時間が同期化されます。初期値に5つのNTPサーバーアドレスが入力されています。アドレス入力をクリックすると、NTPサーバーアドレスを変更することができます。

IP&ポート

IPアドレスとポート値を入力します。[IPアドレス]タブでは、IPv4とIPv6を設定することができます。[ポート]タブでは、各プロトコルのポート値を設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。[適用]ボタンをクリックすると、カメラ・ウェブビューアーに再度アクセスする必要があります。

IPv4 設定

IPv4タイプを使用してネットワーク通信を有効にした場合に使用する属性のIPタイプ、MACアドレス、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS情報を確認したり変更することができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。IPアドレスを固定的に使用する場合には、[手動]に設定してすべての情報を入力します。動的IPを使用する場合、[DHCP]に設定してDNSアドレスのみ入力します。

- 手動：IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS1、DNS2を直接入力して設定します。
- DHCP：DNS1、DNS2を設定します。

MACアドレス

カメラのMACアドレスが表示されます。

IPアドレス

現在、設定されたIPv4のアドレスが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、IPアドレスを変更することができます。

サブネットマスク

設定されたIPアドレスのサブネットマスクが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、サブネットマスクを変更することができます。

ゲートウェイ

設定されたIPアドレスのゲートウェイが表示されます。[IPタイプ]を[手動]に設定すると、ゲートウェイを変更することができます。

DNS設定(DHCP)

[IPタイプ]を[DHCP]に設定した時に表示されます。[使用]を選択した場合、DNSアドレスが自動的に割り当てられます。

DNS1/DNS2

DNS (Domain Name Service)サーバーのアドレスが表示されます。

ホスト名

ホスト名を読み込むためのONVIF GetHostname操作に使用される名です。初文字は必ず英語のアルファベットで、アルファベット、数字、ハイフン (-) のみを入力できます。また、最大63文字まで入力できます。カメラのデバイス名が初期値に入力されており、必須入力値ではないため値を設定する必要はありません。

参考事項

- [ネットワーク]>[HTTPS]>[セキュア接続方式]>[HTTPS (セキュリティ 接続使用)]で[ホスト名の変更]オプションを選択した場合、ホスト名が証明書に設定された一般名(Common Name)に変更され表示されます。

MTU

ネットワークインターフェースでデータを伝達できる最大伝送サイズ(maximum transmission unit, MTU)を設定します。MTU値は、最小1280オクテットから最大1500オクテットまで設定できます。小さすぎる値を設定する場合、映像再生が遅延されることがあるため、ユーザーネットワーク環境に適するMTU値を設定する必要があります。

ICMP (Timestamp)

ICMP (Internet Control Message Protocol) タイムスタンプ要請メッセージを使用するなら、[有効]を選択してください。タイムスタンプを使用して両システム間の往復時間または時間差を計算できます。ICMP (Timestamp)オプションは基本的にアクティブ化されています。

IPv6 設定

IPv6はIPv4よりデータの処理速度、同時データ処理容量、インタネットアドレスのシステムなどを拡張した次世代インタネットアドレスのシステムです。IPv6を有効にするためには、[使用]を選択します。IPタイプ、IPアドレス、Prefix、ゲートウェイを設定することができます。IPインストーラーでカメラ型名を選択すると、IPv4やIPv6アドレスの中で選択することができ、ウェブブラウザにIPv6アドレスを入力してアクセスすることができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。初期値は[初期値]です。この時にDHCPが見つからないと、自動に前の設定値に変更されます。

- DHCP：DHCPで与えられたIPv6アドレスが表示されます。
- 手動：ユーザーが任意に設定したIPv6アドレスを入力することができます。
- 初期値：初期値に設定されているIPv6アドレスが表示されます。

参考事項

- 設定を変更して[適用]ボタンをクリックすると、ウェブブラウザが閉じられます。後ほど、変更したIPに再度アクセスしてください。

IPアドレス

IPv6アドレスを入力します。

Prefix

IPの範囲を設定することができる値です。[IPタイプ]が[初期値]の場合、[Prefix]値は64です。[手動]の場合には、[Prefix]値を変更することができます。

ゲートウェイ

[IPタイプ]を[手動]に設定した時に表示されます。ユーザーが直接にゲートウェイアドレスを入力します。

ポート

ポートは、システムでデータを送受信する時に使用する位置を意味します。[ポート]タブをクリックして該当項目を設定した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。映像の保安強化のためにHTTPS、RTSP使用をお勧めします。

参考事項

- ポート設定時、0～1023または3702, 4520, 49152は使用できません。

HTTP

ウェブブラウザを用いてカメラにアクセスする時に使用されるHTTPポートです。初期値は80(TCP)です。設定可能な範囲は1024～65535です。HTTPポートを変更する時、ウェブブラウザが閉じられます。再アクセスする時には、新たに設定したHTTPポートをIPアドレスの後に入力してアクセスしてください。HTTPポートが80の場合には、ポートNo.をスキップすることができます。(例：カメラIPアドレス：192.168.1.100、HTTPポート：8080の場合 -> http://192.168.1.100:8080)

HTTPS

HTTPより保安が強化されたバージョンです。SSLでHTTPSモードを設定する時に使用することができます。初期値は443(TCP)です。設定可能な範囲は1024～65535です。

RTSP

RTSP (Real Time Streaming Protocol)タイプで映像を伝送するためのポートで、初期値は554です。設定可能な範囲は1024～65535です。

タイムアウト

タイムアウトを有効にするためには、[使用]を選択します。RTSPタイプに接続した時、一定時間反応がない場合にはポート接続を再設定します。

デジタルPTZ設定

カメラが物理的で上下に移動したり(チルト)、左右に移動して(パン)ビューを変更することではなく、デジタルズームを実行してからカメラのビューを移動するように設定することができます。プリセットを設定したり、プリセットをグループに設定してカメラビューを変更することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

PTZ調整

PTZ独占制御

[PTZ独占制御]を選択すると、複数のユーザーが同時にPTZを制御することを制限します。

ユーザーから継続的な動きの命令がある場合、現在PTZ制御中のユーザー以外のユーザーのPTZ制御命令が制限されます。10秒の間に追加の命令がなければ、PTZ制御を制限する権限は解除されます。ここで一つのユーザーとは、カメラに接続した個別IPを意味します。

カメラのパン、チルト&ズーム動作を調整することができます。

PTZ調整

-  アイコンをマウスでドラッグすると、カメラがパンとチルトに移動します。
- ズーム棒で  ボタンをクリックして画面をズームインしたり、  ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。

プリセット

プリセットはカメラのビューを設定しておくことを意味します。128つのプリセットを設定することができます。

プリセット設定

1. PTZ制御画面で  ボタンをクリックしてカメラの映像をズームインした後、
 -  ボタンをクリックしてからドラッグしてカメラビューを調整します。
 - ズームで  ボタンをクリックして画面をズームインしたり、  ボタンをクリックして画面をズームアウトして映像倍率を選択します。
2. [No.]で設定したいプリセットNo.を選択します。
3. [名前]に該当プリセット名を入力します。
4. [追加]ボタンをクリックします。

プリセット移動

1. [No.]で設定したいプリセットNo.を選択します。
2. [移動]ボタンをクリックすると、設定しておいた位置にカメラのビューが移動します。

プリセット削除

1. [No.]で削除するプリセットNo.を選択します。

2. [削除]ボタンをクリックすると、プリセットを削除します。

グループ

複数のプリセットをグループ化してグループに指定されたプリセットを連続的に読み込むことができます。

グループ設定

1. [グループNo.]でグループNo.を選択します。
2. [プリセットリスト]で[追加]ボタンをクリックした後、プリセットリストが表示されたら[プリセットNo.]でプリセットNo.を選択して[切替時間]に該当プリセットで滞留する時間を秒単位で入力します。
3. 過程を2回繰り返してプリセットNo.を2つ以上入力します。
4. グループに割り当てられたプリセットの中から特定のプリセットを削除するには、[グループNo.]から削除するプリセットを選択して[削除]ボタンをクリックしてください。
5. 設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

グループ動作

1. [グループNo.]で動作するグループを選択します。
2. [開始]ボタンをクリックすると、該当グループに設定されたプリセットが持続時間に合わせて変更されます。
3. [中止]ボタンをクリックすると、グループで動作中のプリセットが止まります。

グループ削除

1. [グループNo.]で削除するグループを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックすると、グループが削除します。

ビデオ設定

カメラ映像にプライバシー領域を設定したり、映像画面を上下左右に反転させることができます。また映像をアナログに出力するように設定したり、ビデオ出力タイプを変更することができます。(カメラ型名によってプライバシー領域や映像画面の反転機能に対応しない場合があります。)

設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

プライバシーエリア

カメラ映像でプライバシーの侵害の恐れがある部分を表示しないようにプライバシー領域として設定することができます。[プライバシーエリアを有効にする]を選択した後、プライバシー領域を無効にするには[プライバシーエリアを有効にする]を選択解除した後、プライバシー領域によって隠される部分なくカメラ映像を確認することができます。設定しておいたエリアは、削除されることなくプライバシー領域リストで確認することができます。

プライバシー領域設定

1. [プライバシーエリアを有効にする]を選択します。
2. カメラの映像画面でマウスをドラッグしてプライバシー領域を設定します。
3. [プライバシーエリア]の[名前]にプライバシー領域の名前を入力した後、[OK]ボタンをクリックします。
4. 追加したプライバシー領域がプライバシー領域リストに追加されます。
5. プライバシー領域にカラーを適用するには、[カラー]で映像を区別するカラーを選択します。ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。設定したプライバシー領域に選択したカラーがすべて同一に適用されます。

参考事項

- プライバシー領域名は、英数字、ダッシュ(-)、ピリオド(.)だけ入力することができます。

プライバシーエリア削除

1. プライバシー領域リストで削除するプライバシー領域を選択します。カメラの映像画面に選択したエリアが表示されます。
2. [削除]ボタンをクリックします。選択したエリアが削除されます。

プライバシー領域順番変更

プライバシー領域が保存される順番を変更できます。

1. [順序]ボタンをクリックします。
2. [順序]のダイアログボックスで、順番を変更するプライバシー領域を選択し、希望するオプションを選択します。
 - 最初に移動するには、[一番上へ]をクリックします。
 - 現在の位置から1段階上に移動するには、[上へ]をクリックします。
 - 現在の位置から1段階下に移動するには、[下へ]をクリックします。
 - 最後に移動するには、[一番下へ]をクリックします。
3. [順序]のダイアログボックスで[OK]をクリックします。

ビデオ回転

カメラを設定した後、画面がひっくり返って見える場合にはフリップ、ミラー機能で画面を直すことができます。また廊下や小道にカメラを設置した場合、[ホールウェイビュー]機能で画面を縦に長く撮影することができるため、監視エリアを効率的に運用することができます。

i 参考事項

- ビデオ回転設定を変更すると、ビデオ映像画面が上下左右にひっくり返ったり変更されます。変更された映像に合わせて映像を分析したり、統計データを蓄積するように分析と統計設定を変更してください。該当設定は[分析]メニューと[統計]メニューで変更することができます。

上下反転

カメラの映像をフリップさせるには、[On]を選択します。

左右反転

カメラの映像をミラーさせるには、[On]を選択します。

ホールウェイビュー

狭い廊下や小道のように一般カメラの映像には監視しにくい環境でカメラ映像を回転させて上下の監視エリアをズームインすることができます。90°(時計回り)、270°(時計回り)に回転することができ、0°に設定すると元の映像に戻ります。

i 参考事項

- コリドービューを設定するためには、設置されたカメラを0°、90°(時計回り)もしくは270°(時計回り)に直接回転させた後、[ホールウェイビュー]で同一な角度を選択する必要があります。
- [ホールウェイビュー]を設定すると、ウェブブラウザが自動に閉じられるためウェブビューアーに再度アクセスする必要があります。

カメラ設定

カメラが設置された環境で最適の映像を撮影するようにカメラの設定を変更することができます。様々な環境に適合した画像プリセットを基本的に提供し、ユーザーが直接にカメラの設定値を指定することもできます。カメラのプレビュー画面で設定した値によって、カメラの映像がどう表示されるか確認することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。設定を変更した後、[適用]ボタンをクリックせずにタイムアウト時間(240秒)が経過すると、設定値が変更前に戻ります。

比較ビュー

カメラ映像の設定値を変更する前の映像と設定値を変更した後の映像を[変更前]パネルと[変更後]パネルで同時に確認できます。

センサーモード

カメラのCMOSセンサーが1秒に何フレーム(fps)を撮影するか設定します。

i 参考事項

- センサーモードのオプションを変更すると、[カメラ設定]で設定したすべての値が初期化されます。
- センサーモード値は、画像プリセットごとにそれぞれ異なる設定ができません。フレームレートは、すべての画像プリセットに等しく適用されます。
- センサーモードで設定したフレーム数に応じて、[Basic]>[ビデオプロファイル]>[フレームレート]の最大値が異なります。

画像プリセットモード

画像プリセットが様々な目的別に適用されます。カメラを使用する環境に合わせて画像プリセットを選択します。

- ユーザー設定プリセット1：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- ユーザー設定プリセット2：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- 屋外昼間：屋外、昼間状況で引かれなく鮮やかな映像を表示したい時に使用します。
- 屋外夜間：屋外、夜間、低照度状況でノイズを減少させて暗いエリアを鮮明に表示したい時に使用します。
- 屋内逆光：屋内の逆光補正状況で屋内外が両方職別できる映像に表示したい時、使用します。
- 屋内の明るい照明：屋内照明状況で鮮やかな画質&ローフリッカーのために使用します。
- 車のナンバープレート：デイ/ナイトに車のナンバープレートをよく職別するために使用します。
- 鮮明な動画：カラーと鮮鋭度を上げるために使用します。

参考事項

- 画像プリセットモードを選択してからホワイトバランス、デイ・ナイトモードなどのようにカメラ画像の詳細設定を変更して[適用]をクリックすると、変更した値が該当の画像プリセット値で保存されます。初期値に戻すためには、[初期化]ボタンをクリックします。

SSDR

SSDRは暗い部分と明るい部分の明るさの差が激しい環境で、暗い部分の明るさのみを上げ、暗い領域の識別力を向上させる機能です。

SSDR

SSDRを有効にするためには、[有効]を選択します。

イベントスケジュール設定

ダイナミックレンジのレベルを調整します。レベルを上げるほど暗い部分の明るさが明るくなります。

D-レンジ

ダイナミックレンジの振幅エリアを選択します。

- 狭い: カメラの基本設定で、画質優先モードです。
- 広い: 識別力を向上させるモードで、明るい領域を暗くして飽和領域をよく見えるようにしたり、暗い領域を明るくして識別力を向上させます。[広い]モードに設定すると、同じ明るさの領域に対する画像では識別力が向上しますが、表現力は低下することがあります。

ホワイトバランス

いろいろな照明環境において、自然な色が再現できるようにホワイトバランスの調整が出来ます。(カメラの仕様により機能に差があります。)

モード

カメラを使用する環境によってホワイトバランスモードを選択します。

- 手動: 手動で赤のゲインと青のゲインを調整することができます。赤が多く表示されると赤のゲインを下げ、青が多く表示されると青のゲインを下げます。緑が多く表示されると青色値/赤色値を共に上げます。
- ATW: カメラのホワイトバランスを自動に補正します。
- 屋外: カメラのホワイトバランスを屋外環境に最適化されるように補正します。
- 屋内: カメラのホワイトバランスを屋内環境に最適化されるように補正します。
- AWC: カメラを現在の照明環境でホワイトバランスの調整をおこない、調整を保持します。正しく調整を行うには、カメラに白い紙を映し[設定]ボタンを押してください。ホワイトバランスが調整されると、調整を保持します。照明の状態が変わった場合には再調整してください。
- NarrowATW: 2800 K~9000 K環境でカメラのホワイトバランスを自動に補正します。[ATW]モードよりカラーの温度範囲が狭いです。
- MERCURY: カメラのホワイトバランスを水銀灯照明環境に最適化されるように自動補正します。

- SODIUM：カメラのホワイトバランスをナトリウム灯照明環境に最適化されるように自動補正します。

赤のゲイン

赤のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。赤色が多く表示されたら赤のゲインを下げます。

青のゲイン

青のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。青色が多く表示されたら青のゲインを下げます。

i 参考事項

- 下記の場合には、ホワイトバランスが正しく動作しないことがあります。その場合には [AWC] モードでホワイトバランスを調整してください。
 - 透き通った空、夕方のように被写体の周囲環境が色温度の補正範囲から外れた場合
 - 被写体の周囲環境が暗い場合
 - カメラが蛍光灯を直接向いたり照明の変化が激しい場合

逆光補正

逆光で撮影された映像を補正することができます。[モード] で無効、BLC、WDR の中から選択することができます。選択した逆光補正モードによって詳細設定を変更することができます。

BLC

BLC (Back Light Compensation) モードは、逆光で暗く撮影された映像にユーザーが特定エリアを設定して選択エリアの対象物がよく表示されるように補正します。

BLC レベル

スライドバーを調整して BLC レベルを設定します。レベルが高いと、設定したエリアの明るさがより明るくなります。

WDR

WDR (Wide Dynamic Range) モードは逆光環境で暗い部分と明るい部分をすべてよく表示させる方法です。カメラのデュアルシャッターを用いて一度は明るい部分がよく表示されるようにショートシャッターで、もう一度は暗い部分がよく表示されるようにロングシャッターで撮影して二つの映像の中でよく表示される部分だけを一つに合わせて表示させる方法です。WDR モードを使用する時、明るいエリアと暗いエリアの間にノイズが発生することがあります。



WDRモードオフ

WDRモードオン

WDRレベル

逆光補正のレベルを調整します。

i 参考事項

- WDRモードを選択すると、シャッター値が初期化されます。したがって画面が明るくなってから暗くなります。
- WDRモードを使用する時、フレームレートは半分に短縮されます。
- WDRモードはカメラが屋内に設置されている状況で、強い逆光がある環境で使用することをお勧めします。
- WDRモード時、明るい部分と暗い部分の間にノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、モーションエリアでノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、照明条件によって下記の現象が起きることがあるためWDRモードをオフにしてください。
 - カラーの不自然な変化、画面の不自然な現象が起きる場合
 - 画面の明るい部分にノイズが発生する場合
- 画面内に明るい部分の面積によってWDR性能差があるため、最適のWDR性能実現のために設置角度を調整してください。
- 最大値を増加させると、画面に不自然な現象が起きることがあります。
- 最適のWDR性能のために?出補正のアイリスを[自動]に設定することをお勧めします。

露出補正

カメラの撮影環境に合わせて露出を変化させることができます。被写体より背景が暗い場合、露出を低く設定すると被写体が正しく表示されます。逆に被写体より背景が明るい場合、露出を多く設定すると被写体が正しく表示されます。

明るさ

画面の明るさを調整することができます。数字が大きいほど画面が明るくなります。

最小シャッター

シャッターは環境によって露出を自動的に設定することができます。最小シャッター～最大シャッターの範囲まで電子シャッターが動作します。最小シャッターは低速露出時間可能範囲の最小値を意味して長い露出時間の上限を設定します。選択した最小シャッターの値が[センサー]モードのfps値より小さい場合、暗い状況でフレームレートが短縮されることがあります。

最大シャッター

最大シャッターは高速露出時間可能範囲の最大値を意味して短い露出時間の上限を設定します。

アンチフリッカー

撮影環境にある照明と周波数の不一致で発生する画面の揺れ現象を防止します。

SSNR

映像のノイズを除去します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- On/Off：SSNR機能の使用有無を設定します。[On]を選択すると、SSNRレベルを調整することができます。
- WISE NR：映像内に動く対象物があると、自動にノイズ削減レベルを調整して対象物の識別力を向上させます。
- WISE NR II：映像内に人や車両の動きが発生した場合、自動的にノイズ減殺レベルを調整し、動く物体の尾引き現象を減少させて識別力を向上させます。

SSNR 2D レベル

SSNR 2Dは、一つのフレームで隣接したピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。SSNR 2D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。

レベルを上げるほどノイズは低減されますが、映像がぼやける可能性があります。

SSNR 3D レベル

SSNR 3Dは、複数フレームのピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。SSNR 3D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。

レベルを上げるほど、ノイズは低減するが映像に残像が発生することがあります。

AGC

AGC (Auto Gain Control)は暗い照明で被写体を撮影する時、映像Gainの感度を調整して明るさを調整することができます。

参考事項

- 最小シャッター、最大シャッターの設定範囲によって画面の露出を飽和することができます。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)モード設定後、適用/解除されるまでは一定時間がかかります。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)モード適用時、映像の識別力が向上される代わりにノイズが増加することがあります。
- 明るくてノイズが少ない環境では、あまりWISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)の効果がないです。
- WISE NR(SSNR 2DとSSNR 3D)設定時、映像のモーション検知は内部的にモーション検知機能を使用するためにモーション検知イベントの動作条件に従います。モーション検知の詳細設定は[分析]>[モーション検知]で確認することができます。
- AGC利用が多い場合、SSNRのSSNR 3D値が増加するため、映像が引かれることがあります。
- AGC動作時、画面にノイズが増加します。

デイ/ナイト

カメラを使用する環境に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。また切替時間を設定すると、ユーザーが設定した時間に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。

デイ/ナイト切替時には、モーション検知イベントやビデオ映像分析イベントを検知することができません。

モード

カメラがカラーやB/Wに変更されるタイプを選択します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- カラー：映像を常時カラーに出力します。
- 白黒：映像を常時B/Wに出力します。
- 自動：昼間にはカラーモード、夜間や低照度の場合にはB/Wに切り替えします。
但し、露出補正の[AGC]を[Off]、[デイ/ナイト]を[自動]に設定できません。
- 外部入力：アラーム入力ポートを外部デバイスと同期した場合、映像のカラーとB/Wを制御することができます。
- スケジュール：[カラー映像動作時間]で設定したスケジュールにデイ/ナイトが変更されます。

参考事項

- [外部入力]オプションはアラーム入力の一つ以上ある場合のみ設定できます。アラーム入/出力は、[イベント]>[アラーム入/出力]で設定できます。

切替時間

デイ/ナイトを[自動]に選択した場合、設定した切替時間の間に明るさ条件が維持された時、映像をカラーやB/Wに変更します。

実行時間

カラーやB/Wに切り替え動作が起きる時間の間隔を設定します。[ユーザー指定]を選択すると、切替感度を直接設定できます。

カラー映像動作時間

カラーモードで動作されるスケジュールを設定します。[毎日]を選択して時間を設定すると、毎日該当時間にカラーモードに動作され該当時間を除いた残り時間はB/Wに動作されます。毎日同じ時間に設定したくない場合には[毎日]を選択解除して月、火、水、木、金、土、日曜日にそれぞれカラーモードの動作時間を設定することができます。

参考事項

- デイ/ナイト切替時、モーション検知イベントは動作しません。つまりモーション検知イベントを「有効」に設定してもデイ/ナイト切替時には検知されないという意味です。モーション検知イベントの使用有無は[分析]>[モーション検知]で設定することができます。

スペシャル

映像のシャープを調整したりコントラスト、カラー調整などを設定することができます。

シャープネス

映像の全判的なシャープを調整します。

シャープネスレベル

映像の全判的なシャープを調整します。[シャープネス]を[on]に設定すると、シャープネスレベルを設定することができます。

シャープネスレベルが高いほど、映像のシャープが強くて鮮明になります。

ガンマ

映像のコントラストを調整します。映像で最も明るい部分と最も暗い部分の格差を意味します。ガンマの数字が高いほど、明るさの差が確かに表れます。

カラーレベル

映像でカラーの強弱を調整します。

LDC

LDC (Lens Distortion Correction)は広角レンズの角部分の映像歪み現象を補正します。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- Off：LDC(映像の歪み補正)機能を使用しません。
- 手動：歪み補正レベルを手動に調整します。
- 自動：自動に映像の歪みを調整します。
- つめるモード(手動)：つめるモードで映像を補正し、[LDCレベル]で補正值を手動に調整できます。
- つめる(自動)：つめるモードで映像を補正し、補正值は自動に設定されます。つめるモードは、上下の視野角度を維持するため、オリジナル撮影映像の左右端部分が切れる現象がある場合があります。
- ズームインモード(手動)：ズームインモードで映像を補正し、[LDCレベル]で補正值を手動に調整できます。
- ズームイン(自動)：ズームインモードで映像を補正し、補正值は自動に設定されます。ズームインモードは、上下/左右の視野角度を維持するため、オリジナル撮影映像がすべて表示されるが、映像の横・縦の比率が維持されません。

LDCレベル

歪み補正率レベルを調整します。[LDC]を[手動]、[つめるモード(手動)]や[ズームインモード(手動)]に設定すると、有効になります。レベル値が高いほど、角部分の歪みが平らに補正され、低いほど歪みがそのまま維持されます。

OSD

カメラタイトルまたは日付と時間を映像に表示することができます。

カメラタイトル

カメラタイトルの表示有無を設定します。[有効]を選択すると、[追加]/[削除]ボタンが有効になります。

[追加]ボタンをクリックすると、リストにカメラの名称を入力できるフィールドが追加されます。カメラのタイトルを入力し、カーソルを動かして位置を設定します。(一部のカメラでは、[追加]ボタンをクリックすると、カメラタイトルを入力できるフィールドと位置を設定できるXとY座標入力フィールドが追加されます。)カメラタイトルは5つまで追加することができます。

カメラタイトルを削除するには、削除する名前を選択してから[削除]ボタンをクリックします。カメラタイトルを入力した後、画面上にどう表示されるのか確認するには名前を入力してから[プレビュー]ボタンをクリックします。

[位置]カラムの[移動]ボタンをクリックすると、プレビュー映像画面にOSD位置が三角形のアイコンで表示されます。アイコンを移動してOSD位置を調整できます。

日付&時間

日付と時間を画面に表示するには、[有効]を選択します。日付表記タイプを選択した後、カーソルを動かして日付と時間表示位置を設定します。

サイズ

OSDのサイズを調整します。

カラー

OSDのカラーを設定します。

OSDテキスト透明度

OSDの透明度を設定します。

オーバーレイ画像

ユーザーが希望する画像を画面に表示できます。[画像のアップロード]メニューで画像をアップロードします。オーバーレイ画像の位置をカーソルを用いて移すことができます。

画像のアップロード

[...]ボタンをクリックしてビットマップタイプのファイルを検索します。[アップロード]ボタンをクリックして画像ファイルをアップロードします。画面に適用した画像ファイルを削除するには、[削除]ボタンをクリックします。

参考事項

- 位置調整ができる項目(カメラタイトル、日付&時間、オーバーレイ画像、システム情報)の場合、固定された他のOSD項目と重なる場合には正しく画面に表示されないこと

IR

モード

B/Wの時、IR LEDがオンになると画面中央の飽和を防止して近くでも被写体を識別することができます。(カメラの仕様により対応するオプションが異なる場合があります。)

- Off：IRモードを使用しません。
- 自動：画面の中心部にある被写体の明るさによって自動にIRの明るさを調整します。
- 自動1：画面の中心部にある被写体の明るさによって自動にIRの明るさを調整します。
- 自動2：画面の中心部&周囲部にある被写体の明るさによって自動にIRの明るさを調整します。
- 手動：手動でIRの明るさを調整します。

イベントスケジュール設定

IRレベルを設定します。

IRレベルは[モード]で[手動]を選択すると、有効になります。

LEDライト

モード

白色のみ点灯するLEDライト動作に対する詳細設定を指定できます。

[補助ライト]や[ライトアラーム]を選択すると、[デイ/ナイト]のモードを変更できます。

- 補助ライト：LEDライトを補助ライトとして使用します。このモードを選択すると[ライトアラーム]機能が無効になります。
 - 自動：画面の明るさを検知してLEDライトを自動的に点灯したり消灯したりします。周りが暗くなると点灯され、明るくなると消灯されます。周辺環境の変化が[最小観察時間]で設定した時間の間ずっと維持されると、LEDライトが点灯または消灯します。
 - スケジュール：設定された時間のみLEDライトを点灯します。
- ライトアラーム：LEDライトをライトアラームとして使用します。設定されたイベント発生時にLEDライトが動作します。LEDライトが動作するイベントタイプは、[イベント]>[イベントルール]で設定できます。
 - コンスタント：イベントが発生したら[実行時間]で設定した時間の間ずっと点灯します。
 - 点滅：イベントが発生したら[実行時間]で設定した時間の間0.5秒の間隔で点滅を繰り返します。
- Off：LEDライトを無効にします。

最小観察時間

[モード]>[補助ライト]>[自動]を選択すると有効になります。

設定した最小観察時間の間ずっと環境変化が維持されると、LEDライトが点灯または消灯します。

感度

[モード]>[補助ライト]>[自動]を選択すると有効になります。

設定した明るさ感度のレベルに応じてLEDライトが点灯または消灯します。例えば[最高]を選択した場合、明るさに対する感度が非常に高くなり、周辺環境が少し明るくなくてもLEDライトが消灯します。

[ユーザー指定]を選択した場合、LEDライトが点灯または消灯する基準となる周辺環境の明るさレベルを0～100まで直接設定することができます。太陽のマークの入力欄に入力する値が低いほど、LEDライトが消灯するのにかなり明るい環境を要します。月のマークの入力欄に入力する値が高いほど、LEDライトが点灯するのにかなり暗い環境を要します。

実行時間

[モード]>[ライトアラーム]を選択すると有効になります。

LEDライトの点灯および点滅の実行時間を設定します。設定した実行時間の間、LEDライトが点灯または点滅します。

レベル

[モード]で[補助ライト]や[ライトアラーム]を選択すると、LEDライトの明るさを設定できます。数字が大きいほど明るくなります。

時間設定

[モード]>[補助ライト]>[スケジュール]を選択した場合に有効になります。

LEDライトの点灯持続時間を設定します。

i 参考事項

- LEDライトが補助ライトとして動作する場合
 - 周りが十分に明るくならない場合、LEDライトが消えないことがあります。そのような環境では、ユーザーが設定した時間にのみ動作するよう動作時間を設定することをお勧めします。
 - 暗い室内や日陰にカメラを設置した場合、昼間でもLEDライトが消えないことがあります。
 - イベントが発生してもライトアラームが動作しません。
- LEDライトがライトアラームとして動作する場合
 - [点滅]モードは歩行者への警告が優先目的のため、動作中は画面の明るさが不安定になることがあります。
 - カメラがモノクロモードの時にライトアラームが動作する場合、カメラの自動調整によりLEDライトアラームの点滅の開始が遅れたり、映像画面が不安定になることがあります。

アクションスケジュール

カメラは常時に特定画像プリセットで動作します。お望みの時間にお望みの画像プリセットを設定して使用することができます。

Off

カメラが上で選択した画像プリセットで動作します。

設定時間のみ動作

ユーザーが指定した時間にお望みの画像プリセットを実行できるように設定することができます。画像プリセットを選択して開始時間と終了時間をそれぞれ設定します。カメラの使用環境に合わせて画像プリセットを時間別に設定します。

[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

スマートコーデック

スマートコーデックは、ユーザーが好む部分をROI領域に設定してROI領域の画質はユーザが設定したどおりに維持するが、その他のエリアは標準画質で管理して映像データサイズを減らす技術です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

手動ROIエリア

ユーザーが直接カメラの映像画面でROI領域を設定することができます。画面にマウスをクリックしてドラッグすると、四角の形でROI領域が生成されます。ROI領域は最大5つまでで、エリアが重なると設定できません。[初期化]ボタンをクリックすると、設定したROI領域がすべて削除されます。

参考事項

- スマートコーデックの使用時には、[ビットレート制御方法]を[CBR]モードに選択してください。[VBR]モードでは、スマートコーデック機能を提供しません。
- スマートコーデックはビデオprofile別に使用有無を設定することができます。[Basic]>[ビデオプロファイル]で[ビットレート制御方法]を[CBR]に設定した後、[スマートコーデック]で使用有無を設定します。「ビデオprofile」ページで「スマートコーデック」を「無効」に設定すると、スマートコーデック機能は動作しません。

スマートコーデック設定 画質

ユーザーが設定したROI領域の画質レベルを選択します。設定した画質レベルでROI領域を確認することができます。ROI領域の画質レベルは標準画質よりはいつも高いです。

ワイズストリーム

[ワイズストリーム]と[ワイズストリーム III]モードを提供します。

ワイズストリームは、基本的に映像の複雑度を分析して画質は維持しながらデータのサイズを効果的に減らせる機能です。

[ワイズストリーム]モードはモーション検知をベースに動作します。つまり、カメラ映像にモーションが多く発生しない場合、圧縮率を上げ映像データのサイズを減らして帯域幅を節約します。再度モーションが発生すると、元の状況に戻して映像情報が損失されないようにします。[ワイズストリーム III]モードはAI対象物検出エリアをベースに動作します。つまり、対象物検出されたエリアのサイズが小さい場合、圧縮率を上げ映像データのサイズを減らして帯域幅を節約します。対象物が検出されたエリアのサイズが大きくなる場合、元の状態に戻します。

設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

モード

ワイズストリームモードを選択することができます。

- ワイズストリーム：モーション検知をベースに動作します。モーション検知領域は、画質を維持しながら、その他の部分の画質を下げてビットレートを削減します。モーションがないかシンプルな環境、つまり映像の複雑度が低い環境ではビットレート削減効果があり、モーションが多いか複雑度が高い環境ではビットレート削減効果が低い場合があります。
- ワイズストリーム III：AI対象物検出エリアをベースに動作します。つまり、対象物を検出するエリアのサイズが小さいほどビットレートが減少し、当該エリアのサイズが大きいほどビットレートが増加します。

参考事項

- [ワイズストリーム]や[ワイズストリーム III]はプロファイル別には設定できず、カメラ全体に対して設定できます。
- [ワイズストリーム]や[ワイズストリーム III]は[コーデック]を[H.264]や[H.265]に設定したり、[ビットレート制御方法]を[VBR]に設定した場合のみ動作します。[コーデック]や[ビットレート制御方法]は、[Basic]>[ビデオプロファイル]ページで設定できます。
- [ワイズストリーム]モードで画面切り替え(Cameraのすぐ前で大きいモーションがある場合など)が発生する場合、ワイズストリームを適用していない映像より画質の劣化(Block noiseなど)がよりひどい場合があります。
- [ワイズストリーム III]モードで対象物が検出されないエリアは、相対的に画質の劣化(Block noiseなど)が発生します。

ワイズストリーム/ワイズストリーム III [モード]で選択したオプションによって[ワイズストリーム]の画質を設定したり、[ワイズストリーム III]の画質を設定できます。

画質

ワイズストリーム機能を使用したくない場合、[無効]を選択します。ワイズストリームを使用して適用するビットレートの減少レベルを[低]、[中]、[速い]で選択します。

DDNS

DDNS(Dynamic Domain Name Service)を利用すると、カメラのIPアドレスをユーザーが覚えやすい一般的なホスト名に変更されるように設定することができます。カメラのIPアドレスが198.160.0.100の場合、IPアドレスの代わりに<http://ddns.hanwha-security.com/camera1>のようなホスト名を入力してカメラにアクセスすることができます。カメラのIPアドレスが変更されてもDDNSアドレスでカメラにアクセスできるため便利です。DDNSでは、Hanwha Vision専用のWisenet DDNSを使用したりパブリックDDNSを使用することができます。お望みのDDNS情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。選択したDDNSに接続すると「成功」メッセージが表示され、接続されない場合「失敗」メッセージが表示されます。

参考事項

DDNSとルーターのポートフォワーディングを共に設定すると、DDNSサービスを使用することができます。ルーターのポートフォワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。UPnP検索機能が有効になると、DDNSを使用することができません。[ネットワーク]>[自動IP設定]で、[UPnP検索]を[有効]を選択すると、UPnP機能が有効になります。

DDNS

Off

DDNSを使用しない場合に選択します。

Wisenet DDNS

Hanwha Visionから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。

Wisenet DDNSを有効にするためには、Wisenet DDNSのウェブサイト(<http://ddns.hanwha-security.com> (<http://ddns.hanwha-security.com>))で会員登録した後、[My DDNS]>[製品登録]で先に製品を登録する必要があります。

- サーバー名：有効にするDDNSサーバー名を入力します。
- 製品ID：Wisenet DDNSサーバーに登録された製品のIDを入力します。

UPnP(Universal plug and play)機能に対応するルーターを使用する時、[クイック接続]を選択すると外部からアクセスする時、自動にポートを開くように対応します。

参考事項

- ルーターがUPnP機能に対応しないか、[クイック接続]を使用せずにDDNSサーバーを使用するためにはルーターのポートフォワーディングを手動で設定してください。ルーターのポートフォワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。

パブリックDDNS

公開サイトから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。該当サイトでサービスに加入してから使用します。

- サーバー名：有効にするパブリックDDNSサーバーを選択します。
- ホスト名：DDNSサーバーに登録されたホスト名を入力します。
- ユーザー名：DDNSサーバー用のユーザー名を入力します。
- パスワード：DDNSサーバー用のパスワードを入力します。

IPフィルタリング

特定IPへのアクセスを許可したり拒否するようにIPアドレスリストを作成することができます。IPv4とIPv6を区分してIPアドレスを管理します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

フィルタリングタイプ [登録されたIPの接続制限]と[登録されたIPの接続許可]のフィルタリング条件は、すべてのIPアドレスに適用されます。

- 登録されたIPの接続制限：登録されたIPのアクセスを拒否します。
- 登録されたIPの接続許可：登録されたIPのみアクセスを許可します。

参考事項

- アクセスを許可したIPを登録する時は、現在カメラにアクセス中のIPを必ず登録する必要があります。特に[Basic]>[IP & ポート]>[IPv6設定]を[使用]に選択した場合には、現在カメラにアクセス中のIPアドレスのIPv4とIPv6アドレスをすべて追加する必要があります。
- 現在、アクセス中のIPアドレスは[登録されたIPの接続制限]に登録することができません。

IPv4

IPv4タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。IPアドレスは最大10個まで保存することができます。

IPv4アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。PrefixはIPの範囲を設定できる値で、IPv4の場合には1～32まで設定することができます。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

1. 削除するIPv4アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254のアドレスは使用できません。

IPv6

IPv6タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。
IPアドレスは最大10個まで入力することができます。

IPv6 アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。PrefixはIPの範囲を設定できる値で、IPv6の場合には1～128まで設定することができます。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6 アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
 2. [削除]ボタンをクリックします。
 3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。
-

HTTPS

セキュア接続方式を選択したり、認証局証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

セキュア接続方法

保安レベルを考えて使用環境に合うセキュア接続方式を選択します。HTTPS (HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer)は、ハイパーテキスト伝送規約階層の下にあるSSLサブ階層でユーザーのページリクエストを暗号化、復号化する過程でデータを送受信します。したがって、保安上HTTPモードより安全だと考えられます。

HTTP(セキュリティ接続未使用)

HTTPに暗号化せずにデータを伝送する時に選択します。

HTTPS(セキュリティ接続使用)

HTTPSセキュリティ接続モードに接続する時に選択します。

証明書

登録した証明書リストが表示されます。HTTPS接続時に使用する証明書を選択します。

証明書は[ネットワーク]>[証明書管理]で登録でい、暗号化されないキーファイルが含まれた証明書のみリストで表示されます。

ホスト名の変更

[ホスト名の変更]オプションを選択すると、カメラホスト名を証明書の一般名(Common Name)と同じく変更します。カメラホスト名が証明書に設定された一般名(Common Name)と異なる場合、一部のセキュリティ検査ツールで製品の保安が弱いと判断されることがあります。

ホスト名は[Basic]>[IP & ポート]>[IPアドレス]>[IPv4 設定]>[ホスト名]で確認することができます。

[ホスト名の変更]は[証明書]で[デバイス証明書]を選択した場合のみ設定できます。

相互認証

保安強化のために相互認証を行うには、[相互認証]を選択します。

相互認証を行ってから、アクセス許可に対するオプションを選択できます。

- [全接続許可]: 相互認証の成功有無に関係なく相互認証を試したすべてのアクセスに対して接続を許可します。つまり、相互認証されなくてもカメラへのアクセスを許可します。
- [相互認証の接続のみ許可]: 相互認証に成功した場合のみカメラへのアクセスを許可します。

- [相互認証の接続のみ許可(Device IDの検証を含む)]：相互認証時、整合性確認のためにクライアントのデバイスID情報まで検証して認証される場合のみ接続を許可します。

[相互認証]は[証明書]で[デバイス証明書]を選択した場合のみ設定できます。

TLS設定

暗号化通信に使用するcipherモードやTLSバージョンを設定します。

Cipherモード

キー交換、認証、暗号化など、TLS暗号化通信に使用する様々なアルゴリズムを組み合わせて暗号スイート(cipher suites)を提供します。保安に優れている暗号スイートのみ使用するには、[安全な暗号スイートのみ使用]を選択します。保安に多少弱くても下位互換性のための暗号化スイートを使用するには、[互換される全暗号スイート使用]を選択します。[互換される全暗号スイート使用]を選択すると、安全な暗号化スイートと不安全な暗号化スイートをすべて含みます。

バージョン

暗号化通信に使用するTLSプロトコルバージョンを選択します。

[Cipherモード]で[安全な暗号スイートのみ使用]を選択すると、TLS 1.2やTLS 1.3だけを選択することができます。[互換される全暗号スイート使用]を選択すると、TLSのすべてのバージョンでお望みのオプションを選択することができます。

802.1x

ネットワークにアクセスする時、802.1xプロトコルの使用有無を選択して証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IEEE 802.1x 設定

IEEE 802.1x

ネットワークにアクセスする時、IEEE 802.1xプロトコルを有効にするには[有効]を選択します。IEEE 802.1xは、IEEE 802.1というネットワークプロトコルグループの一部分でポートベースのネットワークアクセス制御(port-based Network Access Control – PNAC)に関するIEEEの標準です。主に無線LAN(WIFI)環境でセキュリティを強化するために使用されます。

EAPタイプ

EAP (Extensible Authentication Protocol)は無線ネットワークとポイントツーポイントプロトコル(Point to Point Protocol)で規定された認証タイプに拡張しやすいように設計されたプロトコルです。LEAPタイプが保安に弱い認証タイプであるため、EAP-TLS、PEAPv0/MSCHAPv2を使用できない環境でのみ使用することをお勧めします。

- EAP-TLS : EAP-TLS (Transport Layer Security)は、サーバーとクライアント証明書が必要とする相互認証を行い、アクセスされてからの保安を考えて動的WEPキーを使用します。
- LEAP : LEAP (Lightweight Extensible Authentication Protocol)は証明書を要求せずに動的WEPキーだけを使用するため、必ず強力なパスワードを使用する必要があります。
- PEAPv0/MSCHAPv2: PEAP/MSCHAPv2 (Protected Extensible Authentication Protocol/Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol)認証はサーバー側の認証だけを行って作成されたEAP-TLSセッションでユーザーのID、パスワード基盤の認証を行います。

EAPOLバージョン

ネットワークスイッチで使用する[EAPOL] (EAP over LANs)のバージョンを[1]または[2]の中で選択します。

ID

[EAP-TLS]ではクライアント証明書IDを入力し、[LEAP]と[PEAPv0/MSCHAPv2]ではユーザーIDを入力します。

パスワード

[EAP-TLS]ではクライアントのプライベートキーパスワードを入力し、[LEAP]と[PEAPv0/MSCHAPv2]ではユーザーのパスワードを入力します。[EAP-TLS]で暗号化されてないキーファイルを使用する場合、入力する必要はありません。

参考事項

- アクセスされたネットワークデバイスが802.1xに対応しない場合、802.1xを[有効]に設定しても正しく動作しない場合があります。

証明書

CA証明書

証明書リストで希望するCA証明書を選択します。

表示されるCA証明書は、[ネットワーク]>[証明書管理]>[CA証明書]で登録したものです。

Client証明書

証明書リストで希望するクライアント証明書を選択します。クライアント証明書は、ユーザーが作成または適用して使用する証明書です。

表示されるクライアント証明書は、[ネットワーク]>[証明書管理]>[Client証明書]で登録したものです。

QoS

QoS(Quality of Service)は、ネットワーク網に過負荷(同時アクセス量増加、ネットワーク障害発生など)が発生した時にデータ伝送の優先順位を決めて設定された優先順位にデータ伝送品質を保障する機能です。QoSを適用するIPアドレスをIPv4またはIPv6タイプに入力することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IPv4

QoSを適用するIPアドレスをIPv4タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは32、DSCPは63に設定されています。

- Prefix：IPの範囲を設定できる値で、IPv4の場合には1～32まで設定することができます。
- DSCP：DSCP (Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254アドレスは使用できません。

IPv4アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv4アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

1. 削除するIPv4アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

IPv6

QoSを適用するIPアドレスをIPv6タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは128、DSCPは63に設定されています。

- Prefix：IPの範囲を設定できる値で、IPv6の場合には1～128まで設定することができます。
- DSCP：DSCP(Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

IPv6アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv6アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
 2. [削除]ボタンをクリックします。
 3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。
-

SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol)は、ネットワーク管理プロトコルでネットワーク上のデバイスから情報を収集してネットワークを管理することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

SNMP v1/v2c

SNMP v1プロトコルは、暗号化されていないため保安機能がほとんどありません。また、帯域幅を非常に多く使用するためデバイスが多い場合にはネットワーク管理できないことがあります。SNMP v2cプロトコルは、データと認証保安のためにアルゴリズムが追加され、SNMP v1より効率的に帯域幅を使用するようになりました。

SNMP v1

SNMP v1を有効にするためには、[有効]を選択します。

SNMP v2c

SNMP v2cを有効にするためには、[有効]を選択します。[SNMP v2c]を選択すると、リードコミュニティとライトコミュニティが有効になります。

読み取りコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのリード専用のコミュニティ名を入力します。

書き込みコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのライト専用のコミュニティ名を入力します。

SNMP v3

SNMP v3は認証タイプが変更されv1、v2cより保安が強化されてデータ変形なしに伝送することができます。また、承認されてないユーザーがデータにアクセスできないようにパケットを暗号化しました。

SNMP v3

SNMP v3を有効にするためには、[有効]を選択します。

パスワード

SNMP v3のユーザーパスワードを設定します。パスワードは8文字以上16文字まで使用することができます。初期設定されたパスワードは保安に弱いので、製品をインストールしてからすぐ新しいパスワードに変更することをお勧めします。初期設

定されたパスワードによる保安&その他の問題に関する責任はユーザーにあるので
ご注意ください。

i 参考事項

- SNMP v3を有効にするには、「セキュア接続方式」を「HTTPS」モードに設定する必要があります。[ネットワーク]>[HTTPS] (ssl.html)>[セキュア接続方式]で[HTTPS(セキュリティ接続使用)]を選択してください。
- SNMP v3を無効にする場合、保安に問題が発生することがあります。

SNMPトラップ

SNMPトラップは、ネットワーク上にあるデバイスに特定なイベントが発生した時、管理システムにイベントを知らせる機能です。

SNMPトラップ

SNMPトラップを有効にするためには、[有効]を選択します。

コミュニティ

メッセージを受けるトラップコミュニティ名を入力します。

IPアドレス

メッセージを送るIPアドレスを入力します。

- 認証失敗通知：コミュニティ情報が正しくない場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。
 - ネットワーク接続通知：切断されたネットワークに再接続された場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。
-

自動IP設定

カメラIPを自動に設定することができます。同一のローカル網でカメラにアクセスできるIPアドレスを追加に割り当てるか、WindowsやMac OSでネットワークにアクセスされたカメラを確認できるように設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

リンクローカルIPv4アドレス 同一のローカル網でカメラにアクセスできる追加IPを割り当てることができます。

自動設定

リンクローカルIPv4アドレスの自動設定を有効にするには、[有効]を選択します。

- IPアドレス：割り当てられたIPアドレスが表示されます。
- サブネットマスク：割り当てられたIPのサブネットマスクが表示されます。

UPnP検索

UPnP(Universal Plug and Play)プロトコルに対応するクライアントとOSで自動にカメラを検索することができます。

UPnP検索

UPnP検索を有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISNET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

Bonjour

Bonjourプロトコルに対応するクライアントとOSで自動にカメラを検索することができます。Bonjourを初期値に対応するMac OSでは、SafariウェブブラウザのBonjourブックマークでアクセスされたカメラが表示されます。

Bonjour

Bonjourを有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISNET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

参考事項

- ブックマークが表示されない場合、PreferenceメニューのBookmarksを確認してください。

証明書管理

証明書を追加して削除することができます。CA証明書とClient証明書でそれぞれ分離して管理できます。CA証明書は、CA (Certificate Authority、認証機関)で自体署名した証明書です。Client証明書は、ユーザーが作成または適用して使用する証明書です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

Client証明書

ユーザー証明書をインストールしたり、削除することができます。ユーザーが証明書ファイルとキーファイルを持っている場合、登録できます。もしくは証明書の詳細情報を入力した後、証明書ファイルを作成することもできます。自社で提供する[デバイス証明書]が基本に登録されており、この証明書は削除できません。①ボタンをクリックすると、証明書情報を表示します。

Client証明書の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. 証明書ファイルがある場合、[証明書追加]ダイアログボックスで[タイプ]オプションのうち、[Client]を選択して次を実行します。
 - 証明書名：証明書名を入力します。最大31文字まで入力でき、特殊文字、韓国語、漢字、空欄は入力できません。
 - 証明書ファイル：[...]をクリックした後、証明書ファイルを選択します。
 - キーファイル：[...]をクリックした後、認証キーファイルを選択します。
3. 証明書を直接作成するには、[証明書追加]ダイアログボックスで[タイプ]オプションのうち、[Self-signed]を選択して次を実行します。アスタリスク(*)に表示された必須入力項目のみ入力しても証明書は作成されます。
 - 証明書名：証明書名を入力します。最大31文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []を入力できます。
 - 名前(CN)：証明書の名前(Common Name)を入力します。最大63文字まで入力できます。特殊文字のうち、- _ [] .*と空欄を入力できます。
 - SAN：証明書SAN (Subject Alternative Name)情報を入力します。最大198文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ [] .、を入力できます。
 - 有効期間：証明書の有効期間を選択します。
 - 国(C)：国(County)の情報を入力します。二文字のアルファベットのみ入力できます。
 - 市/都(ST)：都単位や市単位の地域(State or province)の情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 組織(O)：機関名(Organization)の情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 区/群/市(L)：詳細地域(Locality)情報を入力します。最大63文字まで入力でき、特殊文字のうち、- _ []と空欄を入力できます。
 - 組織構成単位(OU)：組織構成単位(Organation unit)情報を入力します。
 - Eメール：E-mailアドレスを入力します。
4. [証明書追加]ダイアログボックスで[確認]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

Client証明書の削除

1. 削除するClient証明書を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。

CA証明書

CA証明書をインストールしたり、削除することができます。CA証明書は、CA (Certificate Authority、認証機関)で発行した証明書です。
自社で提供する[Root CA証明書]が基本に登録されており、この証明書は削除できません。① ボタンをクリックすると、証明書情報を表示します。

CA証明書の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. [CA証明書の追加]ダイアログボックスで
 - 証明書名：証明書名を入力します。
 - 証明書ファイル：[...]をクリックした後、証明書ファイルを選択します。
3. [CA証明書の追加]ダイアログボックスで[確認]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

CA証明書の削除

1. 削除するCA証明書を選択します。
 2. [削除]ボタンをクリックします。
-

イベントルール

特定のイベントが発生する時、カメラが特定の動作を行うようにルールを作ることができます。

イベントルール

あるイベントが発生すると、カメラがどのような動作をいつ行うか、詳細なイベントルールを登録できます。また、イベントルールの有効可否を設定できます。

イベントルールの追加

[追加]ボタンをクリックした後、イベントルール設定ウィンドウからイベントルールを設定します。

1. [ルール名]にイベントルール名を入力します。最大15文字まで入力できます。
2. [イベントトリガー]パネルで[追加]を選択した後、イベントが発生するチャンネル番号とイベントを発生させるためのトリガータイプを選択します。最大3つまで追加できます。
3. イベントトリガーの条件を反転するには、[反転]をクリックします。つまり、[モーション検知]で[反転]を選択すると、モーション検知が発生しない場合にイベントトリガーが動作します。特定のトリガーの場合、ユーザー設定により下位ルールリストが表示されます。下位ルールの選択後に[反転]オプションを選択できます。特定のトリガーの場合、ユーザー設定によって下位のルールリストが表示されます。下位のルールを選択したあと、[反転]オプションを選択できます。
4. [実行時間]で設定したすべてのイベントトリガー条件を満たすまでの待機時間を設定します。例えば、[実行時間]を[60]に設定すると、設定したすべてのイベントトリガーが60秒以内に発生した時にイベントアクションが実行されます。
5. [イベントアクション]パネルで、イベント発生時にどの動作を行うかを、次の中から希望するイベントアクションを選択します。(カメラの仕様により対応するイベントアクションが異なります。)
 - Eメール：イベントの発生時の映像画面をキャプチャーしてEメールに転送するには、[有効]を選択します。Eメールに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。
 - FTP：イベントの発生時の映像画面をキャプチャーしてFTPサーバーに転送するには、[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。
 - 録画：イベントの発生時の映像を保存するには、[有効]を選択します。保存に対する詳細設定は、[イベント]>[保存]で行うことができます。
 - ハンドオーバー：ハンドオーバー機能は、イベント発生時にカメラが事前に設定したPTZ位置へ移動する機能です。PTZ番号を選択すると、イベント発生時に該当するPTZ位置へカメラが移動します。[無効]を選択すると、イベントが発生してもハンドオーバー機能が動作しません。受信用PTZカメラに関する詳細設定は、[イベント]>[ハンドオーバー]で行うことができます。
 - MQTT：イベント発生時、MQTTクライアントに通知メッセージを発行します。MQTT発行メッセージを追加または修正するには、[イベント]>[MQTT]>[発行/購読]>[発行]タブに移動してください。
 - ライトアラーム：イベントが発生した時、LEDライトが設定された時間の間ずっと点灯されるか0.5秒の間隔で点滅を繰り返します。LEDライトの動作に関する詳細設定は、[ビデオ&オーディオ]>[カメラ設定]>[LEDライト]タブから指定できます。
6. [アクションスケジュール]でイベント動作時間を設定します。つまり、イベント発生時に設定した時間のみにイベントアクションが実行されます。イベントアクションが常に実行されるようにするか、平日や週末のみ動作するように予め設定されたオプションを選択できます。また、カレンダーのアイコンをクリックした後、新しいイベント動作スケジュールを設定できます。
カメラのシステム時間は、[Basic]>[日付&時間]で確認できます。
7. [OK]をクリックします。

追加したイベントルールが表示されます。イベントルールの詳細情報とイベントルールの有効性可否を確認できます。例えば、イベントトリガー条件に'モーション検知'が登録されていても、カメラの'モーション検知'機能が無効になっている場合は、'正しくないルール (Invalid)'と表示されます。

イベントルールを変更するには、イベントルールリストから該当するルールをダブルクリックします。イベントルールのウィンドウが開いたら、条件を変更できます。イベントルールを無効にするためには、イベントルールリストから[Off]を選択します。

イベントルールの削除

- リストでイベントルールを選択したら、[削除]ボタンをクリックします。

参考事項

- イベントトリガーオプションで[ネットワーク切断]を選択すると、組み合わせ可能なイベントトリガーとイベントアクションの選択肢が制限されます。

ハンドオーバー

ハンドオーバーはイベントが発生した時、PTZカメラに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。このページではプリセット位置に移動するカメラとプリセット位置を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

受信者

受信用のPTZカメラを追加・削除することができます。レシーバカメラは、最大32台まで登録することができます。
レシーバカメラに登録したカメラの情報が表示されます。

レシーバカメラ追加

- [追加]ボタンをクリックします。
- [カメラの追加]ダイアログボックスでハンドオーバーを受信するPTZカメラ情報を入力します。
 - 番号：レシーバカメラNo.を設定します。[分析]下位メニューでハンドオーバーのレシーバカメラを設定する時、レシーバカメラNo.を利用します。
 - IPタイプ：IPv4とIPv6の中でIPアドレスタイプを設定します。
 - タイプ：HTTPとHTTPS、TCPの中で使用する通信タイプを選択します。
 - IPアドレス：レシーバカメラのIPアドレスを入力します。
 - ポート：レシーバカメラのポートNo.を入力します。
 - ユーザー：レシーバカメラに接続するための接続IDを入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - パスワード：レシーバカメラに接続するためのパスワードを入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - 動作：イベントが発生したとき、受信カメラがどのようなアクションを実行するかを選択します。プリセット位置にカメラビューを移動するには、[preset]を選択します。クエリ文字列を示すために、[Custom]を選択します。[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した場合のみ設定できます。
 - プリセット番号：レシーバカメラが移動するプリセット位置No.を入力します。受信のためのPTZカメラにプリセットNo.をすでに設定する必要があります。ハンドオーバーメニューでは、すでに設定しておいたPTZプリセットNo.を入力します。
[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した後、[動作]で[Custom]を選択した場合のみ設定できます。
 - クエリストリング：URLのクエリストリングを入力します。[タイプ]で[HTTP]や[HTTPS]を選択した後、[動作]で[Custom]を選択した場合のみ設定できます。
 - TCPメッセージ：ユーザーがTCP受信者に伝送するメッセージを入力します。[タイプ]で[TCP]を選択した場合のみ設定できます。
 - 詳細情報：入力した情報に完成されたURLの情報を表示します。
- [OK]をクリックします。

レシーバカメラ削除

- レシーバカメラリストでチェックボックスをクリックして削除するカメラを選択します。
- [削除]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[OK]をクリックします。

FTP/Eメール

カメラが映像を撮影している間、イベントが発生する場合にはカメラが撮影した画像をFTPサーバーまたはE-mailに伝送することができます。また、FTPサーバーに映像ファイルを伝送することもできます。この時に使用されるFTPサーバーとE-mail設定情報を入力します。

FTPサーバーまたはE-mailサーバー情報を入力してページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、FTPサーバー接続テストまたはテストE-mail送信を実行します。正しくないFTPサーバーまたはE-mailサーバーアドレスを入力した場合、「失敗」というメッセージが表示されます。

FTP設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像を伝送するFTPサーバーのIPアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

ID

FTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。`#%&+=\:<>"`は使用できず、1文字から30文字まで入力できます。

パスワード

FTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。`#%&+=\:<>"`は使用できず、1文字から30文字まで入力できます。

アップロードディレクトリ

イベント発生時、撮影された画像を保存するFTPサーバーのパスを入力します。アルファベット、数字、特殊文字(`/~`!@#\$%^&()_-=+{}[];'.,)を入力でき、1文字から60文字まで入力できます。

ポート

FTPサーバーのポート値を入力します。FTPサーバーのポート初期値は21で、FTPサーバーの設定によってポートを変更することができます。ポートは1～65535番の範囲内で変更することができます。

パッシブモード

ファイアウォールやFTPサーバー設定によってパッシブモードで接続する必要がある場合、[有効]を選択します。

Eメール設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像をE-mailに送るためにE-mailのSMTPサーバーアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

認証

メールを送るたびにIDとパスワードを入力して認証するかしないかを選択します。

TLS

TLSの使用有無を設定します。 보안が必要なE-mailサーバーの場合、[有効]を選択します。

ID

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。#%&+=\:<>"は使用できず、1文字から32文字まで入力できます

パスワード

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。#%&+=\:<>"は使用できず、1文字から32文字まで入力できます

ポート

E-mailのSMTPサーバーのポート値を入力します。E-mailサーバーのポート初期値は25で、TLSを使用する場合のポート値は465です。

受信者

E-mail受信者のE-mailアドレスを入力します。1文字から64文字まで入力できます。

発信者

E-mail発信者のE-mailアドレスを入力します。発信者のアドレスが正しくない場合、E-mailサーバーがメールを伝送しないことがあります。1文字から64文字まで入力できます。

件名

イベント発生時に送るE-mailの題名を入力します。\\は使用できず、1文字から60文字まで入力できます。

メッセージ

イベント発生時に送るE-mailのメッセージを入力します。イベントが発生すると、撮影された画像はE-mailの添付ファイルに伝送されます。\\は使用できず、1文字から255文字まで入力できます。

ストレージ

カメラ映像を保存するデバイスを選択して保存条件を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ストレージアクション の設定

ストレージ用デバイスの種類を選択して[使用]を選択すると、該当デバイスに対する設定を変更することができます。

SDカードとNASを同時に[使用]と設定すると、NASを優先に処理します。

- SDカード：SDカード(もしくはマイクロSDカード)の使用有無を設定することができます。SDカードが認識されると使用可能容量、全体容量、状況が表示されます。SDカードをフォーマットするには、[フォーマット]ボタンをクリックします。
- NAS：NAS (Network Attached Storage)の使用有無を設定することができます。NASに接続したら使用可能容量、全体容量、状況が表示されます。NASの設定上のデフォルトフォルダをフォーマットするには、[フォーマット]ボタンをクリックします。

参考事項

[ステータス]カラムでストレージ用デバイスの状況を表示します。

上書き

SDカードまたはNASのオーバーライト機能使用有無を設定します。デバイスの容量がフルの場合、一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。デバイスの容量がフルになると、デバイスリストの[ステータス]に「メモリ不足」というメッセージが表示されます。

自動削除

自動削除機能の使用有無を設定します。現在の時間を基準に設定した自動削除日数だけのデータを残して過去のデータは自動に削除します。自動削除日は、最小1日から最大180日まで設定することができます。[自動削除]機能は[上書き]を[有効]に設定した時のみ有効になります。

参考事項

- デバイスリストで[ステータス]が「エラー」に表示されると、ストレージ用デバイスが正しく接続されているかストレージ用デバイスのファイルシステムが損傷されていないか、ストレージ用デバイスが物理的に損傷されていないかを確認します。ストレージ用デバイスを確認したにもかかわらず「エラー」メッセージが表示され続けたり、デバイスをフォーマットしたり交換します。
- 高解像度、高いビットレート、高いフレームレートなどを設定すると、映像データ量が増加します。データ量が増加すると、フルフレームに設定してもフレームスキップが発生することがあります。フレームスキップが発生すると、最小1秒当たり1枚以上の映像に保存します。
- Micro SDカードを除去する時には、[off]に変更してからカードを除去してください。[off]に変更せずに任意で除去したり不安定な電源にカメラを接続させるとMicro SDカー

- ドが損傷される場合があります。
- 推奨速度以下のMicro SDメモ리카ードを使用する場合、フレームスキップが発生することがあります。容量が大きいMicro SDメモ리카ードを使用する場合、フォーマット速度が遅くなる場合があります。
 - 削除されたデータは復元できません。

SDファイルシステム

本メニューは、[ストレージアクションの設定]の[デバイス]カラムで[SD]を選択してから表示され、SDカードのファイルシステムを選択することができます。SDカードはVFATとEXT4のファイルシステムに対応するため、使用するカメラのSDカードに合わせてファイルシステムを選択してください。SDカードのファイルシステムがEXT4の場合、ウィンドウOSが認識するためには別途のアプリケーションが必要です。

タイプ

SDカードのファイルシステムをVFATまたはEXT4の中で選択します。設定を変更する時、既存のデータはフォーマットされるため、設定を変更する前には必ずデータをエクスポートします。

参考事項

- SDカードはHigh Endurance SD Cardの使用をお勧めします。詳細は、Hanwha Visionのウェブサイト参照してください。
- EXT4ファイルシステムでSDカードをフォーマットする時、最大10分ほどかかります。

暗号化

SDカードの暗号化機能を使用する場合、映像を保存するときに暗号化されたSDカード(もしくはマイクロSDカード)に映像を保存することができます。これは、SDカードを失った場合にも映像のセキュリティを守ります。SDカードの暗号化オプションは、[ストレージアクションの設定]の[デバイス]カラムで[SD]を選択すると、表示されます。

参考事項

- SDカードを暗号化したり、暗号化を選択解除するために設定を変更すると、SDカードのデータが削除となりSDカードがフォーマットされます。

SDカードの暗号化

[有効]を選択するとSDカードが暗号化され、[有効]を選択解除するとSDカードの暗号化が選択解除されます。

SDカードを暗号化する

1. [暗号化]で[有効]を選択します。
2. [新しいパスワード]入力フィールドにパスワードを入力してから、同じパスワードを[新しいパスワード(確認)]にもう一度入力します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. SDカードの暗号化機能が正常に動作中の場合、「暗号化」メッセージが表示されます。

SDカードの暗号化を選択解除する

1. [暗号化]で[有効]を選択解除します。
2. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。SDカードの暗号化機能が選択解除され、SDカードのデータが暗号化されない場合、「暗号化されない」メッセージが表示されます。

パスワードを変更する

SDカードの暗号化のためのパスワードを変更することができます。
暗号化されたSDカードのパスワードとユーザーが入力したパスワードが一致しない場合、[ストレージアクションの設定]の[ステータス]カラムに「パスワードエラー」メッセージが表示されます。

1. [パスワード変更]ボタンをクリックします。
2. [現在のパスワード]の入力フィールドに既存のパスワードを入力します。
3. [新しいパスワード]と[新しいパスワード(確認)]入力フィールドに新しいパスワードを入力します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

参考事項

- パスワードを忘れたり失う場合、復旧できません。パスワードを再設定すると、SDカードがフォーマットされSDカードに保存されたデータが削除されます。
- パスワード長さ&上限は下記の通りです。
 - 8桁以上9桁以下のパスワードの場合、ローマ字の大文字、小文字、数字、特殊文字の中で3種類以上を組み合わせ使用します。
 - 10桁以上15桁以下のパスワードの場合、ローマ字の大文字、小文字、数字、特殊文字の中で2種類以上を組み合わせ使用します。
 - 連続された文字を4つ以上、使用できません。(例：1234、abcd)
 - 同じ文字を4回以上、繰り返して使用できません。(例：!!!!、1111、aaaa)
 - 特殊文字は~!@#\$%^&()_-=+{}[]?/のみ使用することができます。

NAS接続設定

本メニューは、[ストレージアクションの設定]の[デバイス]カラムで[NAS]を選択してから表示され、NASの接続情報を入力することができます。NAS情報を入力した後、[テスト]ボタンをクリックして正しくNASに接続されたか確認します。正しく接続された場合、(成功)というメッセージが表示され、接続されなかった場合、(失敗)というメッセージが表示されます。

IPアドレス

NASのIPアドレスを入力します。

ID

NASに登録されたアカウントのIDを入力します。

パスワード

NASに登録されたアカウントのパスワードを入力します。

デフォルトフォルダ

映像データを保存するNASのデフォルトフォルダを指定します。

参考事項

- NAS情報を入力した後、テストして失敗メッセージが表示されたら下記の事項を確認します。
 - NASのIPアドレス、ID、パスワード、デフォルトフォルダが正しく入力されているか確認します。
 - NAS IPアドレスとカメラIPアドレスのタイプが同一なのか確認します。(例：NAS&カメラサブネットマスクの初期値は255.255.255.0です。IPアドレスが192.168.20.32の場合、NAS IPアドレスは192.168.20.1～192.168.20.255の間である必要があります。)
 - NASデフォルトフォルダは重複なく一台のカメラで1つのフォルダ使用を原則とします。
 - 推奨するNASデバイスか確認します。ユーザーマニュアルの「NAS推奨仕様」を参照します。
- NASの録画設定中、[上書き]機能を使用せずにNAS使用可能容量が20%以下の場合、録画映像がSDカードに保存されます。
- NASにデータを保存中の場合、他のカメラで使用したSDカードを挿入すると録画映像が保存されないことがあります。
- NASにデータを保存している間には、NAS設定を変更してもすぐ反映されません。
- NASにデータを保存している間にNASデバイスを任意に除去したり、ネットワークが切断されるとNASストレージアクションは異常に終了されることがあります。
- 高解像度、高いビットレート、高いフレームレートなどを設定すると、映像データ量が増加します。データ量が増加すると、フルフレームに設定してもフレームスキップが発生することがあります。フレームスキップが発生すると、最小1秒当たり1枚以上の映像に保存します。
- すでに録画中なのか使用したデフォルトフォルダをフォーマットせずに他のユーザーとして接続しようとしたのか確認してください。

録画設定

エッジ録画プロファイル

録画する時に使用されるビデオプロファイル名が表示されます。[Basic]>[ビデオプロファイル]>[プロファイルタイプ]で「エッジ録画プロファイル」に設定したプロファイルが表示されます。

連続保存

イベントがない一般的な状況でいつも一定なフレームレートで映像を録画するタイプを設定します。

- 無し：カメラ映像を録画しません。
- 1フレーム：連続保存時、1フレームだけを録画します。
- フルフレーム：連続保存時、フルフレームを録画します。

イベント録画

イベントが発生した時に録画するタイプを設定します。

- 1フレーム：イベント発生時、1フレームだけを録画します。
- フルフレーム：イベント発生時、フルフレームを録画します。

プリイベント持続時間

イベントが発生する直前の画像保存時間を設定します。イベント発生時間を基準に1、3、5秒前まで画像を保存することができます。

ポストイベント持続時間

イベントが発生した後の画像保存時間を設定します。イベント発生時間を基準に5、10、30、60、120秒後まで画像を保存することができます。

録画ビデオファイルタイプ

映像を保存するファイルタイプを設定します。保存ファイルタイプを変更すると、既存のデータがフォーマットされます。

- STW : Hanwha Vision独自のファイルタイプです。
- AVI: 一般のAVIファイルタイプです。

連続録画スケジュール 映像をストレージ用デバイスに録画する時間を設定することができます。

常時録画

映像をストレージ用デバイスに常時録画します。

設定時間のみ動作

設定した時間のみ映像を録画します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベント動作時間は、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベント動作時間がすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

時間・スケジュール

タイムスケジュールイベントは、設定した間隔でイベントを発生させる機能です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

イベントスケジュール タイマーイベント設定を有効にするためには、[有効]を選択します。
設定

伝送間隔

イベントの発生する間隔を設定します。
ドロップダウンメニューをクリックして数字と単位を選択します。

参考事項

- イベントアクションの設定で設定した動作時間間隔よりも伝送間隔時間を短く設定する必要があります。

ネットワーク切断

ネットワーク接続が物理的に切断される場合にイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ネットワーク切断 ネットワーク切断イベントを有効にするためには、[有効]を選択します。

MQTT

MQTT (Message Queueing Telemetry Transport)は、発行-購読を基盤とするメッセージ送受信プロトコルです。軽量なメッセージ送信ができるように設計されており、小さいコード空間が必要だったり、最小限のネットワーク帯域幅でリモートデバイスを接続するのに理想的です。

MQTTプロトコルを通じて通信すると、カメラが一つのデバイスではなく複数のデバイスとデータを簡単に送受信できます。例えば、カメラのクライアントがカメライベント通知を配布すると、該当通知を購読する多数のクライアントが該当通知をブローカーを通じて受け取ることができます。また、カメラのクライアントが多数のクライアントの通知を受けてカメラの動作を制御することもできます。例えば、他のクライアントの通知を受けてカメラ録画を開始したり、別のクライアントから該当通知を受けたことを再度通知で配布したりすることもできます。

MQTT

MQTT有効

[MQTT有効]を選択すると、設定されたブローカーに接続します。

状態

ブローカーとの接続状態を表示します。更新ボタンをクリックすると、ブローカーとの接続状態をアップデートして表示します。

クライアント設定

MQTTクライアント情報を設定します。また、カメラのクライアントが接続するMQTTブローカー情報も入力します。

MQTTブローカーは、クライアントが特定トピックのメッセージを購読するという宣言をブローカーに転送すれば、ブローカーは発行者から受け取った該当トピックのメッセージを仲介する役割を担当します。

アドレス

ブローカーのドメイン及びIPアドレスを入力します。[アドレス]と[ポート]は必須項目で、アスタリスク(*)で表示されます。

ポート

ブローカーに接続するためのポート番号を入力します。[アドレス]と[ポート]は必須項目で、アスタリスク(*)で表示されます。

ユーザー名

クライアントIDを入力します。

パスワード

クライアントパスワードを入力します。

プロトコル型

TCP、TLS、WebSocket、WebSocketSecureの中から選択できます。

Basepath

WebSocketとWebSocketSecureを使用する場合、ブローカーアドレスとポート以外にbasepathを設定できます。その時、最終的なブローカーのurlはAddress:port/basepathになります。

ALPN

ブローカーが対応するALPNを入力します。

[プロトコル型]で[TLS]または[WebSocketSecure]を選択した場合にのみ、[ALPN]を入力できます。

Client証明書

カメラにインストールされた証明書リストから希望する証明書を選択します。

Client証明書を追加するには、[ネットワーク]>[証明書管理]>[Client証明書]に移動してください。

[プロトコル型]で[TLS]または[WebSocketSecure]を選択した場合にのみ、[Client証明書]を設定できます。

CA証明書

カメラにインストールされた証明書リストから希望する証明書を選択します。CA証明書を追加するには、[ネットワーク]>[証明書管理]>[CA証明書]に移動してください。

[プロトコル型]で[TLS]または[WebSocketSecure]を選択した場合にのみ、[CA証明書]を設定できます。

サーバー証明書の確認

TLSやWebSocketSecureで接続する場合、サーバー証明書を確認するには[有効]を選択します。

ユーザー指定クライアントIDの使用

ブローカーに接続する時、ユーザー指定したクライアントIDを使用するには[有効]を選択した後、[クライアントID]フィールドにIDを入力します。[クライアントID]フィールドに何も入力しない場合は、任意のIDで接続します。

Keep Alive間隔

時間を秒単位に入力します。設定した時間ごとにブローカーが接続されているか確認します。

[Keep Alive間隔]と[接続タイムアウト]を一緒に設定する場合、[Keep Alive間隔]の値より[接続タイムアウト]の値を大きく設定してください。

接続タイムアウト

時間を秒単位に入力します。設定した時間の間にブローカーから反応がなければ、ブローカーとの接続が解除されます。

[Keep Alive間隔]と[接続タイムアウト]を一緒に設定する場合、[Keep Alive間隔]の値より[接続タイムアウト]の値を大きく設定してください。

自動再接続

[有効]を選択すると、接続されていたブローカーとの接続が解除された時、1分ごとに自動的に再接続します。

クリーン・セッション

[有効]を選択すると、クライアントとブローカーが接続された時、クライアントとブローカーから以前のセッションに残っているすべての情報が（クライアントIDもしくは維持されるように指定されたメッセージなど）削除されます。[有効]を選択しないと、以前のセッションに残っていた情報が維持されます。例えば、以前のセッションで購読していたトピックがあり、セッションを再び接続した時、以前のセッションのトピックを再購読しなくても、該当トピックのメッセージをクライアントは受け取ることができます。

基本トピックのプレフィックス

基本トピックのプレフィックスを入力します。基本トピックのプレフィックスを設定した場合、基本トピックのプレフィックスとメッセージトピックを合わせて最終トピックが生成されます。基本トピックのプレフィックス使用可否はMQTT発行追加の際に設定できます。詳細は、[イベント]>[MQTT]>[発行/購読]>[発行]>[MQTT発行の追加]を参照してください。

接続メッセージ

接続された時にクライアントがブローカーに転送するメッセージです。接続メッセージに使用する項目を選択してください。[イベント]>[MQTT]>[発行/購読]>[発行]タブでメッセージを追加できます。

LWTメッセージ

LWT (Last Will and Testament)メッセージは、クライアントとブローカー間の接続が異常に解除された時、ブローカーが特定トピックに指定したメッセージを送るようあらかじめ宣言しておくメッセージです。LWTメッセージに使用する項目を選択してください。[イベント]>[MQTT]>[発行/購読]>[発行]タブでメッセージを追加できます。

発行/購読

MQTT(Message Queueing Telemetry Transport)は、発行(publication)と購読(subscription)を基にしています。発行者がブローカーにトピックとメッセージを発行すると、ブローカーはトピックを購読する購読者に伝達し、購読者は該当トピックのメッセージを購読することになります。発行者と購読者は特定されておらず、どのクライアントでも発行者や購読者になります。

[発行/購読]ページでは、MQTTクライアントがMQTTプロトコルを使用して特定トピックのメッセージを発行して購読できるように、発行及び購読メッセージ項目を追加したり修正したりできます。

発行

発行するMQTTトピックとメッセージを設定します。発行したトピックを購読するクライアントに該当トピックとメッセージが伝達されます。

MQTT発行の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
 2. [MQTT発行追加]ダイアログボックスで以下のことを行います。
 - 名前：発行メッセージの名前を入力します。
 - 基本トピックのプレフィックス：メッセージを送信する時、基本トピックのプレフィックスを含むには、[有効]を選択します。この時、基本トピックのプレフィックスと転送するトピックを合わせてメッセージを送信します。例えば、基本トピックのプレフィックスに「camera」を設定しておき、転送するトピックが「connection」であれば、「camera/connection」とメッセージが送信されます。基本トピックのプレフィックスは、[イベント]>[MQTT]>[クライアント設定]>[基本トピックのプレフィックス]で設定できます。
 - トピック：発行トピックを入力します。
 - QoS：MQTT発行に対して希望するレベルを選択します。
 - 0：クライアントがトピックとメッセージを送信するだけで、クライアントとブローカーは互いに受信したことを確認・応答するための追加ステップに進めません。つまり、トピックとメッセージを転送するだけであり、結果は保障しません。
 - 1：トピックとメッセージを送ったクライアントがブローカーから確認応答を受信するまで同じトピックとメッセージを繰り返し送信します。
 - 2：クライアントとブローカーは、ハンドシェイクを通じて同じトピックとメッセージをブローカーが確実に一度のみ受信することを保障します。
 - 維持：[有効]を選択すると、送信したメッセージをブローカーが保存しておき、後に該当トピックを購読する新しい購読者に送信します。
 - ペイロード：転送するメッセージ内容を入力します。
 3. [OK]をクリックします。
- 設定したMQTT発行情報を修正するには、項目を選択した後、[修正]をクリックします。

MQTT発行メッセージの削除

1. MQTT発行リストから削除する項目を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。

MQTT購読の追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. [MQTT購読追加]ダイアログボックスで以下のことを行います。
 - 名前：購読するメッセージの名前を入力します。
 - トピック：購読するトピックを入力します。
 - タイプ：トピックとメッセージを購読する方式を選択します。

MQTTトピックは、「event/objectdetection/person」のようにスラッシュ(/)で区分して階層的に構成できます。

またワイルドカードを使用できます。#を使用すると下位レベルのトピックをすべて購読します。例えば、A/B/#を入力すればA/B/a、A/B/a/D、A/B/b、A/B/b/Dなどの下位レベルのすべてのトピックを購読します。

+を使用すると該当レベルのトピックを拡張して購読します。例えば、A/B/+Dを入力すればA/B/a/D、A/B/b/D、A/B/c/Dなどのトピックを拡張購読します。
3. [OK]をクリックします。
 - ステートレス：購読するトピックのメッセージを受信するたびにイベントが発生し、イベント発生状態がすぐに解除されます。購読するメッセージを複数受け取る場合、メッセージを受け取るたびにイベントが発生します。

例えば、電灯をつけるイベントをトリガーするために「home/light」トピックで“on”メッセージを購読するように設定しておいたら、“on”メッセージを受信すると電灯がついてからすぐに消えます。同じメッセージを複数受信すると、受信するたびに電灯がついては消えます。
 - ステートフル：購読するトピックのメッセージを受信すると、1回イベントが発生し、その後にはイベント発生状態がずっと維持されます。購読するメッセージと違うメッセージを受信しないと状態が解除されません。従って、購読するメッセージを引き続いて受け取る場合には、複数のメッセージが届いても新しいイベントは発生しません。

例えば、電灯をつけるイベントをトリガーするために「home/light」トピックで“on”メッセージを購読するように設定しておいたら、“on”メッセージを受信すると電灯がつき、その状態がずっと維持されます。“on”ではない別のメッセージを受信したら電灯が消えます。その後、“on”メッセージをまた受信したら、電灯もまたつきます。
 - QoS：MQTT購読に対して希望するレベルを選択します。
 - 0：クライアントがトピックを送信すると、クライアントとブローカーは、受信確認応答のための追加ステップに進めません。
 - 1：トピックを送ったクライアントが確認応答を受信するまで同じトピックを繰り返し送信します。
 - 2：クライアントとブローカーは、ハンドシェイクを通じて同じトピックをブローカーが一度のみ受信することを保障します。
 - ペイロード：購読するメッセージ内容を入力します。

MQTT 購読の削除

1. MQTT購読リストから削除する項目を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。

モーション検知

エリアと除外エリアを設定した後、ユーザーが設定したエリア内でモーションを検知すると、モーション検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

モーション検知

モーション検知を有効にする

モーション検知イベントを有効にするためには、[モーション検知を有効にする]を選択します。

参考事項

- モーションのサイズ範囲に合わせてエリアと除外エリアを設定して使用します。
- 下記の場合には、モーション検知イベントの性能が低下されるか誤動作することがあります。
 - 対象物が画面の背景と似た明るさか色である場合
 - 画面の枠の周囲で発生する細かいモーションの場合
 - シーンチェンジ、急激な照明変更などの要因により画面の全体的な変化がランダムで持続的に発生する場合
 - 動く対象物がカメラに近づく場合
 - 任意の対象物がお互いに違う対象物を隠す場合
 - 対象物のモーションが速すぎる場合(同一の対象物は連続されたフレームの間に重なる部分が存在する必要があります。)
 - 直射光線、照明、車のヘッドライトなどの強い光による反射/濁り/影が発生する場合
 - ひどい雪、雨、風などがあるか日の入り/日の出などの場合

検知エリア

ユーザーが指定するエリアをモーションエリアに設定します。

エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとエリアが設定されます。

エリアは最大8つまで設定することができ、エリア別にレベルと感度をそれぞれ設定することができます。

エリア変更

エリアの頂点を動かしてエリアのサイズを変更することができます。

多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。

エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

エリア削除

エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

エリアが追加されると、順番にエリア数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当のエリアがプレビュー画面で選択されます。

検知レベル

モーション検知の基準になるレベル値を設定します。[ROIエリア]で設定したエリア別にレベル値を設置することができます。設定したレベル値よりモーションが大きい場合、モーション検知イベントを発生させます。
またエリア別にモーションを検知するとモーショングラフが表示され、モーション検知イベントが発生した場合グラフ色が変更されます。

感度

エリア別にモーション検知感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

最小観察時間(秒)

最小観察時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます

対象物

モーション検知イベントを発生するための対象物タイプを選択します。
例えば、「人」を選択した場合、バーチャルエリアで人を検知した場合のみ、モーション検知イベントが発生します。

参考事項

- 対象物を選択した場合、カメラ映像で選択した対象物だけを検知します。対象物を選択しない場合、カメラ映像でモーションを検知します。例えば、[対象物]でオプションを選択しなかった場合、モーション検知イベントルール条件を満たす動く対象物を検知すると、モーション検知イベントが発生します。

除外エリア

モーション検知を除外するエリアを設定することができます。

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8まで設定することができます。

除外エリア変更

除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に[ROIエリア]数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

共通設定

モーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。

サイズ

右下の頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小サイズ]値と[最大サイズ]値も変更されます。

参考事項

- エリアと除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さいモーションと最大サイズより大きいモーションは検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために設置環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考えて余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

タンパリング検知

画面が隠されたりカメラの位置が変更される場合、タンパリング検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

タンパリング検知

タンパリング検知を有効にする

タンパリング検知イベントを有効にするためには、[タンパリング検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

タンパリング検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上のタンパリングが検知されると、タンパリングイベントを発生させます。またタンパリングを検知するとレベルを示すグラフが表示され、タンパリング検知イベントが発生した場合グラフ色が変更されます。

感度

感度を高く設定するほど、検知レベルのグラフが敏感に反応します。

最小観察時間(秒)

タンパリングを検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。タンパリングが最短時間の間に持続する場合のみ、タンパリング検知イベントが発生します。

ダークネス除外

急に照明が消えるなど、画面の明るさが急激に減少することをタンパリング検知イベントから除外するには、[有効]を選択します。光が遮って暗くなったことを照明が消えて暗くなったと検知し、画面の明るさ変化に対する通知を除外することができます。

参考事項

- 背景がシンプルな環境と夜間および低照度環境では、検知性能が低くなる場合があります。
- カメラがひどく揺れたり急激な照明変化がある場合、タンパリング検知機能が誤動作することがあります。
- タンパリングが発生した直後からタンパリング検知イベントが発生するまで、一定時間(最大5秒)がかかります。
- カメラのタンパリングが検知されると、一定時間(およそ5秒)安定化してから機能がリスタートされ、安定化が実行される間にはタンパリングを検知しません。
- イベントが間違えて発生し続ける場合、段階的にレベル値を下げてエラーを最小化することができます。
- 低い検知レベルを使うと、画面の細かい変化にも通知を受けることができるが、移動体や明るさ変化による誤検知が発生することがあります。

焦点ぼけ検知

カメラレンズのフォーカスがぼけることが検知される場合、焦点ぼけ検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

焦点ぼけ検知

焦点ぼけ検知を有効にする

焦点ぼけ検知イベントを有効にするためには、[焦点ぼけ検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

焦点ぼけ検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上に焦点ぼけが検知されると、焦点ぼけ検知イベントを発生させます。

焦点ぼけを検知すると、焦点ぼけのレベルを示すグラフが表示され、焦点ぼけイベントが発生するとグラフ色が変更されます。

感度

感度を高く設定するほど、同じ映像に対するレベルグラフがより高く描かれます。

最小観察時間(秒)

焦点ぼけを検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。焦点ぼけ状況が最短時間の間に持続する場合のみ、焦点ぼけ検知イベントが発生します。

i 参考事項

- 焦点ぼけ検知に対するアラーム発生後、再度焦点ぼけ検知に対するアラームを受けるためには、必ず一度は安定状況に戻る必要があります。安定状況に戻る原因としては、下記場合があります。
 - [焦点ぼけ検知を有効にする]をチェック解除した場合
 - 映像内の対象物がフォーカスの合う位置に移動して識別できるレベルになった場合
- 下記の場合には、焦点ぼけ検知性能が低下されるか誤動作が発生することがあります。
 - 背景がシンプルな監視環境と夜間、低照度環境
 - 急激な照明変更(例：屋内の電灯消灯)
 - レンズが隠されることまたは画面のほとんどを占める大きい対象物登場
 - カメラ位置変更などによるフォーカス対象変更

対象物検知

カメラ映像でユーザーが設定した対象物を検知すると、対象物検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

対象物検知	対象物検知を有効にする 対象物検知イベントを有効にするためには、[対象物検知を有効にする]を選択します。 [対象物検知を有効にする]を選択すると、[対象物検知]で選択した対象物が[最小観察時間]で設定した時間より長く画面で検知される場合、対象物検知イベントが発生します。
対象物	カメラが検出するターゲットの種類とイベントを発生させる最小時間を設定します。

対象物検知	カメラが検知する対象物タイプを選択します。
最小観察時間(秒)	検知した後、イベントを発生するための最小時間を設定します。設定した時間より長くモーションがある場合、イベントを発生させます。

除外エリア	[対象物検知]で選択した対象物を検知せず、除外するエリアを設定します。
-------	--

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。

多角形を作成するには、作成済みの長方形の線を選択した後、『+』記号が表示されたら『+』記号をクリックすると、頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作成できます。

除外エリアを選択してマウスをドラッグすると、除外エリアの位置を移動することができます。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に[ROIエリア]の数字ボタンのカラーが変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

参考事項

- [対象物検知]の[除外エリア]タブで設定した値は、[IVA]>[除外エリア]値と同期します。つまり、[対象物検知]の[除外エリア]タブで除外エリアを設定すると、[IVA]>[除外エリア]にも同じく除外エリアが作成されます。

共通設定

対象物を検知するとき、感度や検知する対象物の最小サイズと最大サイズを設定します。

使用環境によって検知の正確度を上げ、誤検知を最小化するために適用することができる設定です。

感度

対象物検知の感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

サイズ

検知する対象物の最小サイズと最大サイズを設定します。右下の頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更できます。サイズを変更すると、[サイズ]から[最小]値と[最大]値も変更されます。

除外エリア

AIカメラは、各対象物別に詳細を分析したデータをカメラと同期するプログラムなどで活用するように転送します。この場合、除外エリアに設定された領域で検知した対象物の情報は、基本的に転送しません。除外エリアで検知した対象物の情報と各対象物の詳細を転送するには、[検知除外エリアの対象物データ使用]を選択します。

カメラが転送する対象物別の詳細情報は「AI Camera Metadata Specification」ドキュメントをご参照ください。

参考事項

- [対象物検知]の[共通設定]タブで設定した値は、[IVA]>[共通設定]値と同期します。つまり、[対象物検知]の[共通設定]タブで値を変更すると、[IVA]>[共通設定]値も同じく変更されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さい対象物や最大サイズより大きい対象物は、検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために、インストール環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考慮して余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

DetectionShot

DetectionShotを適用するオプションを選択します。

DetectionShotは、検知した対象物の情報を分析し、最も信頼できる時点の全体イメージを生成します。

[ctrl+alt+s]キーを押すと、カメラのウェブビューアのライブページから
DetectionShotのイメージを確認できます。

IVA

ビデオ映像分析に対する規則を設定して、イベント規則条件を満足するモーションを検知すると、IVA(Intelligent Video Analytics、インテリジェントビデオ解析)イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

参考事項

[対象物]オプションで特定対象物を選択した場合、カメラ映像で選択した対象物だけを検知し、該当対象物がIVAイベントルールを満たす場合、IVAイベントが発生します。反面、[対象物]でオプションを何も選択しない場合、動く対象物を検知します。

IVA(インテリジェントビデオ解析) IVAを有効にする

IVAイベントを有効にするためには、[IVAを有効にする]を選択します。

仮想ライン

ユーザーが設定したバーチャルラインと方向を基準に対象物が通過することを検知します。

バーチャルライン設定

カメラ映像画面の設定したい位置でラインの開始点と端点をクリックすると、バーチャルラインが設定され[ライン]の数字ボタン色が変更されます。

バーチャルラインを設定した後、[名前]フィールドに設定したバーチャルライン名を入力できます。

バーチャルラインの真ん中にある矢印をクリックすると、方向をAからB、BからA、両方向に変更したり[カテゴリー]の[方向]でお望みの方向を選択することもできます。バーチャルラインは最大8つまで設定することができます。

バーチャルライン変更

設定したバーチャルラインの頂点を動かしてバーチャルラインのサイズを変更することができます。バーチャルラインをマウスをクリック、ドラッグしてバーチャルラインの位置を変更することができます。また、仮想線を選択した後に+記号が表示されたら、+記号をクリックして頂点を追加し、頂点を移動してさまざまな形状の仮想線を作成できます。

バーチャルライン削除

バーチャルラインを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ライン

バーチャルラインが追加されると、順番に[ライン]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルラインはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルラインが再度表示されます。

名前

[ライン]で選択したバーチャルライン名を確認したり、変更できます。

対象物

IVAイベントを発生させるための対象物タイプを選択します。

例えば、対象物タイプから[人]を選択した場合、仮想ラインを通過する人が検知されるとIVAイベントが発生します。

参考事項

- [対象物]オプションで特定の対象物を選択した場合、カメラ画像から選択した対象物のみを検知し、その対象物がIVAイベントルールを満たす場合にIVAイベントが発生します。一方、[対象物]でオプションを何も選択しなかった場合は、動いてる全ての対象物を検知し、対象物がIVAイベントルールを満たす場合にIVAイベントが発生します。

カテゴリー

- 通過：設定したルールによってバーチャルラインを通過する対象物を検知した時、イベントを発生させるためにはチェックボックスを選択する必要があります。
- 方向：対象物がバーチャルラインを通過する方向を設定します。

バーチャルエリア

ユーザーがバーチャルエリアを設定して該当のエリアに侵入、進入、退出、出現(消滅)、うろつくの映像規則を適用して、対象物のモーションを検知します。

バーチャルエリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとエリアが設定されます。

バーチャルエリアは最大8つまで設定することができ、エリア別にビデオ映像分析の規則を設定することができます。

ユーザーが希望する場合、バーチャルエリアを設定した後、[名前]フィールドに設定したバーチャルエリアに対して名前を入力できます。

バーチャルエリア変更

設定したバーチャルエリアの頂点を動かしてバーチャルエリアのサイズを変更することができます。

多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。

設定したバーチャルエリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。線をクリックした後、表示された頂点を移動して多角形のバーチャルエリアを設定することができます。

バーチャルエリア削除

バーチャルエリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

バーチャルエリアが追加されると、順番に[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルエリアはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルエリアが再度表示されます。

名前

[領域]で選択したバーチャルエリア名を確認したり、変更できます。

対象物

IVAイベントを発生させるための対象物タイプを選択します。

例えば、[人]を選択した場合、関心領域で人を検知した場合にのみIVAイベントが発生します。

参考事項

- [対象物]オプションで特定の対象物を選択した場合、カメラ画像から選択した対象物のみを検知し、その対象物がIVAイベントルールを満たす場合にIVAイベントが発生します。一方、[対象物]でオプションを何も選択しなかった場合は、動いてる全ての対象物を検知し、対象物がIVAイベントルールを満たす場合にIVAイベントが発生します。

カテゴリー

バーチャルエリア別に適用する規則を設定することができます。

- 侵入する：設定した領域内部に[対象物]で選択した対象物を検知すると、イベントを発生させます。
 - 最小観察時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます。
- 進入：[対象物]で選択した対象物がユーザーの指定した領域の外部から内部に入る時、イベントを発生させます。
- 退出：[対象物]で選択した対象物がユーザーの指定した領域の内部から外部に退出時、イベントを発生させます。
- 出現(消滅)：ユーザーが指定したエリア内部に存在しなかった対象物がエリアラインを通過せずにエリア内部に現れ一定時間とどまったり、エリア内部に存在していた対象物が消えるとイベントを発生させます。

[出現(消滅)]オプションの場合、他のオプションとは違って[対象物]で選択した対象物ではなく、動くすべての対象物を検知します。

 - 最小観察時間(秒)：出現(消滅)を検知するための対象物の最短持続時間を設定します。検知エリアで実行時間の間、存在していた対象物が消えると消滅に検知し、実行時間の間に存在しなかった対象物が現れると出現と検知します。
- うろつく：設定したバーチャルエリア内で[対象物]で選択した対象物がうろつくことを検知すると、イベントを発生させます。
 - 最小観察時間(秒)：うろつく対象物を検知してイベントを発生するための最小時間を設定します。設定した時間より長くうろつく対象物を検知すると、イベントを発生させます。

i 参考事項

- うろつく検知は他のIVAイベント検知と共に使用する場合、単独で使用するより多少性能が低下することがあります。
- 下記の場合には、対象物が消滅したことに認識してうろつく検知機能が動作しないことがあります。
 - うろついている対象物が他の対象物と重なる場合
 - うろついている対象物が一定時間、動かない場合
 - うろついている対象物と近接領域に移動体がある複雑な環境が発生した場合

除外エリア

バーチャルラインとバーチャルエリアで分析規則を適用する時、モーションを検知しない位置に除外エリアを設定します。

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを選択してマウスをドラッグすると、除外エリアの位置を移動することができます。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

除外エリアが追加されると、順番に[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。
数字ボタンをクリックして無効にすると、該当の除外エリアはプレビュー画面に選択されます。

i 参考事項

- [IVA]の[除外エリア]タブで設定した値は、[対象物検知]>[除外エリア]値と同期します。つまり、[IVA]の[除外エリア]タブで除外エリアを設定すると、[対象物検知]>[除外エリア]にも同じく除外エリアが作成されます。

共通設定

バーチャルラインとバーチャルエリアに共通に適用される感度と検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。

使用環境によって検知の正確度を上げ、誤検知を最小化するために適用することができる設定です。

感度

バーチャルラインとバーチャルエリアに対するモーション検知の感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

サイズ

バーチャルラインとバーチャルエリアでモーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小サイズ]値と[最大サイズ]値も変更されます。

除外エリア

AIカメラは、各対象物別に詳細を分析したデータをカメラと同期するプログラムなどで活用するように転送します。この場合、除外エリアに設定された領域で検知した対象物の情報は、基本的に転送しません。除外エリアで検知した対象物の情報と各対象物の詳細を転送するには、[検知除外エリアの対象物データ使用]を選択します。

カメラが転送する対象物別の詳細情報は「AI Camera Metadata Specification」ドキュメントをご参照ください。

i 参考事項

- [IVA]の[共通設定]タブで設定した値は、[対象物検知]>[共通設定]値と同期します。つまり、[IVA]の[共通設定]タブで値を変更すると、[対象物検知]>[共通設定]値も同じく変更されます。
- エリアと除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さい対象物や最大サイズより大きい対象物は、検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために、インストール環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考慮して余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

検索

人数カウントは、カメラのビデオ映像分析でバーチャルラインを通過する人の数をカウントすることです。人数カウントの「検索」では、カウントした人数を条件別、時間別に統計データを検索して確認することができます。

i 参考事項

- 人数カウントの検索機能を使用するには、まず[統計]>[人数カウント]>[設定]で[人数カウント有効]を選択して人数カウントのルールを設定する必要があります。

検索

人数カウントのルール別、カウントタイプ別に出入りした人数の統計データを見せます。

画面に[統計]>[人数カウント]>[設定]で設定したルールラインが画面に表示されます。また、ルール別に各カウントタイプ(INもしくはOUT)によってカウントした人数データを表に表示します。表の数値は、本日の0時から現在の時点までカウントした人数の合計です。表の[ルール名]は、[統計]>[人数カウント]>>[設定]で設定したことです。[IN]はルールラインの矢印方向に動いた人数、[OUT]はルールラインの矢印逆方向に動いた人数です。

本日

本日の0時から24時までカウントした人数を時間別のグラフに表示します。ルール名とカウントタイプ(INとOUT)の組み合わせで「ルール名-IN」、「ルール名-OUT」の合計4つのオプションがあり、オプションを選択すると該当グラフだけシアンに表示されます。グラフ上にマウスをあげると、選択した時間の人数情報を正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

週次

本日を基準に過去7日間、日付別の人数推移をグラフに表示します。ルール名とカウントタイプ(INとOUT)の組み合わせで「ルール名-IN」、「ルール名-OUT」の合計4つのオプションがあり、オプションを選択すると該当グラフだけシアンに表示されます。グラフ上にマウスをあげると、選択した日付の人数情報を正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

検索

日付

[直近]を選択すると、現在時間を基準として直近一日、一週、一カ月単位で検索することができます。

[期間]を選択すると、日次、月次、年次単位で期間を指定して検索することができます。カレンダーアイコンを選択した後、日付を変更することができます。

ルール

検索するルール条件を選択します。ルール(ルール01とルール02)と該当ルールのカウントタイプ(INとOUT)を組み合わせで選択することができます。例えば「ルール01」と「IN」があうチェックボックスを選択すると、「ルール01」で指定したルールラインの矢印方向に通過した人数を検索します。「ルール02」と「OUT」があうチェックボックスを選択すると、「ルール02」で指定したルールラインの矢印逆方向に通過した人数を検索します。

ルールは[統計]>[人数カウント]>[設定]で設定することができます。

人数カウントのデータ検索

1. [検索]の[日付]で検索する日付を選択します。
2. [ルール]で検索するルールと各ルールのカウントタイプを選択します。例えば「ルール01」中、指定した方向に動いた人数だけを検索するには、「ルール01」と「IN」があうチェックボックスを選択します。
3. [検索]ボタンをクリックします。[結果]に検索結果が表示されます。

結果

人数カウントのデータを検索した場合、結果がグラフと表で表示されます。

「直近1日」を検索した場合、本日の0時から24時まで時間別にデータを表示します。「直近1週」を検索した場合、本日を基準に過去7日間のデータを日付別に表示します。「直近1カ月」を検索した場合、本日を基準に過去30日間のデータを日付別に表示します。

「期間」を選択してから特定の日、月、年を指定した場合、指定した日の0時から24時まで時間別のデータを表示し、指定した月と年の日付別データを表示します。人数カウントデータは、ルール名とカウントタイプ(INとOUT)の組み合わせで「ルール名-IN」「ルール名-OUT」に分類されて表示します。グラフでオプションを選択すると、該当グラフだけシアンに表示されます。またグラフ上にマウスをあげると、選択した時点のデータを正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

参考事項

- 検索されるデータは、15分ごとに更新されます。本検索結果は、[設定]ページで表示されるリアルタイム結果と異なる場合があります。

ダウンロード

検索実行後、[ダウンロード]ボタンをクリックすると、検索結果をダウンロードすることができます。txtファイルタイプでダウンロードすることができます。ダウンロードしたファイルは各ブラウザの基本保存パスに保存されます。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

設定

人数カウントは、カメラのビデオ映像分析でバーチャルラインを通過する人の数をカウントすることです。人数カウントの「設定」では、人の数をカウントする条件と人数カウントの正確度を上げるための詳細を設定します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

設定

人物カウント有効

人数カウント機能を有効にするには、[人物カウント有効]を選択します。

設定

人数をカウントするルールを設定します。人数カウントのルールは最大2つまで設定することができます。

ルール設定

カウントルールを設定するには、[ルール]でチェックボックスを選択した後、[ルール名]フィールドにルール名を入力します。ルール名は、ローマ字と数字のみで15文字まで入力することができます。入力した名前は、[統計]>[人数カウント]>[検索]で表示されます。

カウントタイプ設定

人数カウントで人数をカウントするタイプには、INカウントとOUTカウントがあります。[ルール]でチェックボックスを選択すると、映像にルールラインが表示されます。ラインの矢印方向に動く人数はINカウント、矢印の逆方向に動く人数はOUTカウントとなります。ルールラインの矢印をクリックすると、矢印方向を変更することができます。



ルールライン設定

人数カウント機能はルールラインを通過する人をカウントします。ルールラインの位置を変更するには、映像に表示されたルールラインをクリックした後、マウスでドラッグします。ルールラインの両方の端に位置した頂点をマウスでドラッグして、ラインの長さを調整することができます。

ルールを選択して有効になると、映像の下にリアルタイムカウントデータが表示されます。リアルタイムカウントは 毎日00時を基準に初期化されます

人数カウントのルール有効&無効

カウントルールを有効にするには、[ルール]でお望みのルールのチェックボックスを選択します。

カウントルールを無効にするには、[ルール]でお望みのルールのチェックボックスを選択解除します。人数カウントのルール設定はそのまま残っているため、再度チェックボックスを選択すると同じ設定にルール機能が有効になります。

除外エリア

ユーザーが指定したエリアでは、出入りする人の数をカウントしないように設定します。

除外エリア設定

映像の上にマウスで頂点4つを選択すると、除外エリアが設定され[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。除外エリアは最大4まで設定することができます。

除外エリア変更

除外エリアの頂点や線をクリックした後、動かして除外エリアのサイズを調整することができます。除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

[ROIエリア]の数字ボタン色をクリックすると、該当エリアが映像から選択されます。選択されたエリアは、白色の太枠に表示されます。

人数カウントのリアルタイムデータ

設定したルールと各ルールのカウントタイプによってリアルタイムでカウントした人数の合計が表に表示されます。

レポート

有効

周期的に人数カウントデータをE-mailとFTPに受信するには、[有効]を選択します。
FTPとE-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[\[FTP/Eメール\]](#)で行うことができます。

スケジュール

毎日同じ時間に人数カウントデータを受信するには、[日次]を選択してから時間を選択します。
毎週同じ曜日と時間に人数カウントデータを受信するには、[週次]を選択してから曜日と時間を選択します。

ファイル名

FTPサーバーやE-mailで人数カウントデータを送るファイル名を入力してファイルタイプを選択します。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

イベントアクションスケジュール

人数カウントが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定できます。人数カウントが動作すると、該当時間に人数カウントデータを収集します。

常時録画

人数カウントを常時動作します。

設定時間のみ動作

人数カウントをスケジュール動作します。[設定時間のみ動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたり、ドラッグして人数カウント動作時間を設定できます。設定されたスケジュールは、該当曜日と時間に繰返して動作します。

[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、時間表示単位を変更できます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認したり変更するには、[Basic]>[日付&時間]を参照してください。

すべてのデータを削除	人数カウントデータをすべて削除するには、[すべてのデータを削除]をクリックします。
------------	---

参考事項

- 下記の場合、変更された映像画面に合わせて再びルールを設定して[すべてのデータを削除]をクリックして人数カウント検索に使用される過去のデータを削除することをお勧めします。
 - [ビデオ&オーディオ]>[ビデオ設定]>[ビデオ回転]で設定値を変更した場合

検索

車両カウントは、設定したラインを通過する車両数をカウントする機能です。車両カウントの[検索]ページでは、カウントした車両数の統計データを条件別・時間別に検索して確認できます。

i 参考事項

- 車両カウントの検索機能を有効にするには、まず[統計]>[車両カウント]>[設定]で[車両カウントを使用]を選択し、車両カウントのルールを設定する必要があります。

検索

車両カウントのルール別、またはカウント方式別に出入した車両数の統計資料を示します。

[統計]>[車両カウント]>[設定]で設定したルールラインが画面に表示されます。また、ルール別に各カウント方式(IN、OUT)に応じて、本日0時から現時点までカウントされた車両の総数を表で表します。表の[ルール名]には、[統計]>[車両カウント]>[設定]で入力したルールの名前が表示されます。[IN]はルールラインの矢印が示す方向に動いた車両数を、[OUT]は矢印の反対方向に動いた車両数を表示します。

本日

本日0時から24時までカウントした車両数を時系列に沿ってグラフに表します。

週次

本日を基準に、過去7日間の日次車両数推移をグラフに表示します。

i 参考事項

- 各チャートの上段で、各ルール名とカウント方式(IN、OUT)の組み合わせで作成された4つの項目(ルール名1-IN、ルール名1-OUT、ルール名2-IN、ルール名2-OUT)を確認できます。選択した項目は、青緑色で表示されます。各チャートにマウスカーソルを重ねると、吹き出しヘルプとともに縦線が表示されます。吹き出しヘルプは、縦線が表す時間または日付ごとにカウントされた車両数を表示します。

検索

日付

[直近]を選択すると、現在時刻を基準に日次・週次・月次ごとの直近データを検索できます。

[期間]を選択すると、日次・月次・年次の単位で期間を指定して検索することができます。カレンダーのアイコンを選択すると、日付を変更できます。

ルール

検索するルールの条件を選択します。ルール(ルール01、ルール02)とそのルールのカウント方式(IN、OUT)の組み合わせで選択できます。例えば、[ルール01]列[IN]行のチェックボックスを選択すると、[ルール01]で指定したルールラインの矢印方向に通過した車両数を検索します。[ルール02]列[OUT]行のチェックボックスを選択すると、[ルール02]で指定したルールラインの矢印とは反対方向に通過した車両数を検索します。

ルールは、[統計]>[車両カウント]>[設定]で設定できます。

車両カウントのデータを検索

1. [検索]の[日付]で検索する日付を選択します。
2. [ルール]で検索するルールと各ルールのカウント方式を選択します。例えば、[ルール01]のルールで矢印方向にのみ動いた車両数を検索するには、[ルール01]列[IN]行のチェックボックスを選択します。
3. [検索]をクリックすると、[結果]に検索結果が表示されます。

結果

車両カウントデータを検索した場合、設定した期間に応じて結果がグラフと表に表示されます。

- [直近]を選択した場合
 - 1日：本日0時から24時まで時系列に沿ってグラフに表示します。
 - 1週：本日を基準に、過去7日間のデータを日別に表示します。
 - 1か月：本日を基準に、過去30日間のデータを日別に表示します。
- [期間]を選択した場合
 - 日次：カレンダーのアイコンをクリックすると、指定した日の0時から24時まで時系列に沿ってデータを表示します。
 - 月次：カレンダーのアイコンをクリックすると、指定した月の日別データを表示します。
 - 年次：カレンダーのアイコンをクリックすると、指定した年度の日別データを表示します。

車両カウントのデータは、ルール名とカウント方式(IN、OUT)の組み合わせで作成された4つの項目(ルール名1-IN、ルール名1-OUT、ルール名2-IN、ルール名2-OUT)に分類されて表示されます。選択した項目は、青緑色で表示されます。チャートにマウスカーソルを重ねると、選択した時点でカウントされた車両数を表示する吹き出しヘルプが表示されます。

参考事項

- 検索できるデータは15分ごとに更新されます。この検索結果は[設定]ページで表示されるリアルタイムデータと異なる場合があります。

ダウンロード

検索し、[ダウンロード]をクリックすると、検索結果をtxtファイル形式でダウンロードできます。[ダウンロード]画面でファイルの題名、詳細情報、ファイル名を入力し、[適用]をクリックします。

- 題名：アルファベットや仮名、特殊文字、数字を含めて最大32文字まで入力できます。
 - 詳細情報：アルファベット・仮名・特殊文字・数字を含めて最大120文字まで入力できます。
 - ファイル名：アルファベットや数字を含めて最大64文字まで入力できます。
-

設定

車両カウントは、設定したラインを通過する車両数をカウントする機能です。車体の中心が設定したラインより車幅の長さ以上離れた位置から出発し、設定したラインを通過して、また車幅の長さ以上の距離を走った場合のみカウントされます。車両カウントの[設定]ページでは、車両数をカウントするルールと車両カウントの精度を高めるための詳細設定ができます。設定が完了したら、ページの下にある[適用]をクリックします。

設定

車両カウントを使用

車両カウント機能を有効にするには、[車両カウントを使用]を選択します。

参考事項

- IN/OUTデータを表す表では、設定したルールと各ルールのカウント方式に応じてカウントされた車両数の合計を随時確認できます。

設定

車両カウントのルールを設定します。車両カウントのルールは最大2つまで設定できます。ラインを通過した車両分析データは3秒ごとに更新されます。

ルール設定

カウントルールを設定するには、[ルール]でチェックボックスを選択し、[名前]の欄にルール名を入力します。[1]番を選択すると1番ラインが、[2]を選択すると2番ラインが、[番号]を選択すると1、2番ラインが映像画面上に現れます。ルール名は、アルファベットおよび数字を含めて最大15文字まで入力できます。入力後、下の[適用]をクリックすると、入力した名前は[統計]>[車両カウント]>[検索]にも表示されます。

カウント方式を設定

[ルール]でチェックボックスを選択すると、映像画面上に矢印型のルールラインが現れます。矢印をクリックすると、方向を変更できます。車両をカウントする方式には、INカウントとOUTカウントがあります。

- IN：矢印が示す方向に動く車両をカウントします。
- OUT：矢印の反対方向に動く車両をカウントします。



ルールラインを設定

ルールラインをマウスでクリックして移動させたい位置にドラッグすると、ラインの位置を変更できます。ラインの始点と終点を動かすと、ラインの長さや方向を調整できます。ルールを選択してそのルールが有効になると、画面の下にカウントデータがリアルタイムで表示されます。カウントのリアルタイムデータは毎日00時を基準に初期化されます。

車両カウントルールを有効化/無効化

カウントルールを有効にするには、[ルール]で有効化したいルールのチェックボックスを選択します。

カウントルールを無効にするには、[ルール]で無効化したいルールのチェックボックスを解除します。解除しても当該ルール設定は保存され、再度選択すると同じ設定でルール機能が有効化されます。また、解除しても設定した期間内にデータが存在する場合、チャートに表示されます。

除外エリア

車両カウント機能を適用しないエリアを設定します。

除外エリアを設定

映像画面上の任意の位置でマウスを使って頂点4つを選択すると、除外エリアが設定され、[エリア]でそのエリアに該当する数字ボタンの色が変わります。除外エリアは最大4つまで設定できます。

除外エリアを変更

設定した除外エリアの頂点を動かすと、除外エリアのサイズを変更できます。多角形にするには、作成した四角形の線の上にマウスを置きます。[+]記号が表示されたら、[+]記号をクリックして頂点を追加します。最大8面の多角形を作ることができます。除外エリアを選択してマウスでドラッグすると、位置を移動できます。

除外エリアを削除

除外をエリアを削除するには、画面上の該当するエリアでマウスを右クリックし、[確認]ウィンドウで[OK]をクリックします。

エリア

[エリア]の数字ボタンをクリックすると、そのエリアの枠が太い白色に変わって映像画面上に表示されます。

レポート

有効化

車両カウントの統計レポートを受け取ることができます。

周期的に車両カウントデータをEメールやFTPで受け取るには、[有効]を選択します。

データは15分ごとに更新されます。データのストレージが不足している場合、最も古い日付の1日分のデータを削除して保存します。

[イベント]>[FTP/Eメール]でFTPとEメールに関する詳細設定を行うことができます。

スケジュール

[日次]を選択したうえで時間を選択すると、毎日同じ時間に車両カウントデータを受け取ることができます。

[週次]を選択したうえで曜日と時間を選択すると、毎週同じ曜日と時間に車両カウントデータを受け取ることができます。

ファイル名

FTPサーバまたはEメールに送信する車両カウントデータのファイル名を入力し、ファイル形式を選択します。ファイル名はアルファベットと数字を含めて最大64文字まで入力できます。ファイル形式は.xlsxと.txtの中で選択できます。

イベントアクション スケジュール	車両カウントを常時または設定時間にのみ動作するように設定することができます。車両カウントが動作する間に車両カウントデータを収集します。
---------------------	---

常時動作

車両カウントを常時動作させます。

設定時間のみ動作

設定時間にのみ車両カウントを動作させます。[設定時間のみ動作]を選択すると、カメラ画面の現在時刻を基準に日曜日から土曜日までの日付がスケジュール表に表示されます。スケジュール表でマウスをクリックするかドラッグすると、車両カウント動作の時間を設定できます。設定されたスケジュールは、設定した曜日と時間に繰り返されます。

[1分]、[30分]、[1時]をクリックすると、時間の表示単位を変更できます。[初期化]をクリックすると、設定されたスケジュールがすべて削除されます。カメラ画面の時間を確認・変更したい場合は、[Basic]>[日付&時間]をご参照ください。

全データを削除

車両カウントデータをすべて削除するには、[全データを削除]をクリックします。

参考事項

- 次の場合、変更された映像画面に合わせてルールを再設定し、[全データを削除]をクリックして車両カウントの検索に使用された過去のデータを削除することをお勧めします。
 - [ビデオ&オーディオ]>[ビデオ設定]>[ビデオ回転]で設定値を変更した場合

参考事項

次のような条件では、エラーが発生したり、動作しないことがあります。

カメラのレンズが地面に向かって垂直に設置された場合

車両がライン付近に駐車されていたり、ラインの近くで往復している場合

車両がラインの端で進入/出入を繰り返す場合

周囲の明かりが徐々にまたは急に変わる場合(日出や日没など外部から車両ライトが当たる場合、周辺の照明施設の色または明るさが変わる場合)

ライン上に車両が同時に5台以上ある場合

ライン付近で動く車両が背景または別の対象物によって隠れる場合

2台以上の車両が密着した状態で通過する場合

密集度が高い場合（例：映像に映る対象物の70%以上が動く物体である場合）

交通が混雑している場合

夜間にもかかわらずIRがオフになっていたため車両の識別が困難な場合

雪/雨/霧などの環境要因により車両の検出が困難な場合

カメラがぶれた場合

検索

キュー管理は、カメラのビデオ映像分析で指定したエリアに滞留した平均人数と合計持続時間をモニタリングできる機能です。キュー管理の「検索」ページでは、待機中の人数&待機時間の統計データを検索して確認することができます。

i 参考事項

- キュー管理の検索機能を使用するには、まず[統計]>[キュー管理]>[設定]で[キュー管理を有効にする]を選択してキュー管理エリアを設定する必要があります。

検索

画面に[統計]>[キュー管理]>[設定]で設定したキュールールが表示されます。

占有率

キュールール別にリアルタイム分析データを表示します。

本日

平均人数

本日の0時から24時まで各キュールールの平均人数を時間別のグラフに表示します。

グラフ右上にあるキュールール名を選択すると、該当グラフだけシアンに表示されます。グラフ上にマウスをあげると、選択した時間の人数情報を正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

合計時間(分)

待機した合計待機時間をキュールール別、検知レベル別(高、中)にそれぞれ分析してグラフに表示します。

検知レベルは[設定]ページの[検知レベル]で指定したことで、キューの人数によって「高」と「中」で待機レベルを分類します。

例えば「Queue 1-高」は「Queue 1」キューに検知レベル「高」レベルで待機人数が多かった時の合計時間を表示し、「Queue 1-中」は「Queue 1」キューに検知レベル「中」レベルで待機人数が多かった時の合計時間を表示します。

週次

本日を基準に過去7日間日付別、キュー別の平均人数推移をグラフに表示します。

グラフ上にマウスをあげると、選択した日付の人数情報を正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

検索

日付

[直近]を選択すると、現在時間を基準として直近一日、一週、一カ月単位で検索することができます。

[期間]を選択すると、日次、月次、年次単位で期間を指定して検索することができます。カレンダーアイコンを選択した後、日付を変更することができます。

ルール

検索する条件を選択します。キュールールと分析条件(平均人数、高や中の検知レベル)を組み合わせで選択することができます。例えば「Queue 1」と「平均」があうチェックボックスを選択すると、「Queue 1」キューの平均人数を検索します。

「Queue 1」と「高」があうチェックボックスを選択すると、「Queue 1」キューで「高」レベルの人数が待機した合計時間を検索します。「Queue 1」とあう「平均」「高」をすべて選択して検索することもできます。

ルールは[統計]>[キュー管理]>[設定]で設定することができます。

キューデータ検索

1. [検索]の[日付]で検索する日付を選択します。
2. [ルール]で検索するキューと分析オプションを選択します。例えば「Queue 1」キューの平均待機人数と「高」レベルの人数が待機した合計時間を検索するには、「Queue 1」と「平均」があうチェックボックスと「Queue 1」と「高」があうチェックボックスを選択します。
3. [検索]ボタンをクリックします。[結果]に検索結果が表示されます。

結果

キューデータを検索した場合、結果がグラフと表で表示されます。

「直近1日」を検索した場合、本日の0時から24時まで時間別にデータを表示します。「直近1週」を検索した場合、本日を基準に過去7日間のデータを日付別に表示します。「直近1カ月」を検索した場合、本日を基準に過去30日間のデータを日付別に表示します。

「期間」を選択してから特定の日、月、年を指定した場合、指定した日の0時から24時まで時間別のデータを表示し、指定した月と年の日付別データを表示します。キューデータは、キュー名と分析タイプ(平均人数、待機レベル高、待機レベル中)の組み合わせで「キュー名-平均」、「キュー名-高」、「キュー名-中」に分類して表示されます。グラフでオプションを選択すると、該当グラフだけシアンに表示されます。またグラフ上にマウスをあげると、選択した時点のデータを正確な数値でみせる吹き出しヘルプが表示されます。

参考事項

- 検索されるデータは、15分ごとに更新されます。本検索結果は、[設定]ページで表示されるリアルタイム結果と異なる場合があります。

ダウンロード

検索実行後、[ダウンロード]ボタンをクリックすると、検索結果をダウンロードすることができます。txtファイルタイプでダウンロードすることができます。ダウンロードしたファイルは各ブラウザの基本保存パスに保存されます。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

設定

キュー管理は、カメラのビデオ映像分析で指定したエリアに滞留した平均人数と合計持続時間をモニタリングできる機能です。キュー管理の「セットアップ」ページでは、分析する待機ルールを設定して分析正確度を上げるために詳細を設定します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

設定

キュー管理を有効にする

キュー管理機能を有効にするためには、[キュー管理を有効にする]を選択します。

ルール

待機人数や待機時間を分析するキュールールを設定します。キュールールは最大3つまで設定することができます。

キュー管理ルール設定

キュー管理ルールを設定するには、

1. [No.]カラムの前にあるチェックボックスを選択します。
2. 映像画面にキュー管理ルールが表示されたら、エリアの頂点をマウスでドラッグしてルール管理エリアのサイズと形を調整します。
3. [名前]フィールドにエリア名を入力します。ルール名は、ローマ字と数字のみで15文字まで入力することができます。入力したルール名は、[統計]>[キュー管理]>[検索]で表示されます。

ルール別のキュー管理分析有効&無効

- キュー管理分析を有効にするには、該当[No.]カラムの前にあるチェックボックスを選択します。
- キュー管理分析を無効にするには、該当[No.]カラムの前にあるチェックボックスを選択解除します。ルール別のキュー管理分析設定はそのまま残っているため、再度チェックボックスを選択すると同じ設定にキュー分析機能が有効になります。

キューイベント

キューイベントが発生するための条件を設定します。

[ルール]で設定したキューごとにそれぞれキューイベントを設定することができます。

検知レベル

検知レベル(待機レベル)は、設定されたルール内に滞留した人数を表示します。現在、レベルが設定された検知レベルより高い場合、アラームが発生します。

検知レベルは、キュールールに滞留中の人数によって「高」と「中」に分類されます。[最大サイズ]と[速い]の人数を設定すると、「中」値は自動に設定されます。

検知レベル「高」は「高」値以上「最大サイズ」値以下の人数が検知された状況です。

検知レベル「中」は「中」値以上「高」値未満の人数が検知された状況です。

例えば[最大サイズ]値を20、[速い]値を18に設定した場合、自動で「中」値は9に設定されます。該当キューエリアに18人以上20以下の人数が待機中の場合、検知レベルは「高」に分析されます。9人以上18人未満の人数が待機中の場合、検知レベルは「中」に分析されます。

最小観察時間 (秒)

検知レベル別にキューイベントを発生させるための最小待機時間を設定できます。
[速い]を選択して時間を設定すると、該当領域で[検知レベル]の「高」に該当する人数が[最小観察時間]で設定した時間より長く待機する場合、キューイベントが発生します。

[中]を選択して時間を設定すると、該当領域で[検知レベル]の「中」に該当する人数が[最小観察時間]で設定した時間より長く待機する場合、キューイベントが発生します。

例えば、[検知レベル]で「中」が「2名」、「高」が「4名」、「最大サイズ」が「8名」で、[最小観察時間]の[速い]と[中]の値をそれぞれ「10秒」、「5秒」に設定した場合、該当領域に4～7名の人数が10秒以上滞在する時に「高」の待機条件を満たすため、キューイベントが発生します。また、該当領域に2～3名の人数が5秒以上滞在する時には、「中」の待機条件を満たすため、キューイベントが発生します。

レポート

有効

周期的にキューデータをE-mailとFTPに受信するには、[有効]を選択します。
FTPとE-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

スケジュール

毎日同じ時間にキューデータを受信するには、[日次]を選択してから時間を選択します。

毎週同じ曜日と時間にキューデータを受信するには、[週次]を選択してから曜日と時間を選択します。

ファイル名

FTPサーバーやE-mailでキューデータを送るファイル名を入力してファイルタイプを選択します。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

イベントアクションの設定

キュー管理イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

Eメール

キュー管理イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/Eメール]で行うことができます。

すべてのデータを削除 キュー分析データをすべて削除するには、[すべてのデータを削除]をクリックします。

i 参考事項

- 下記の場合、変更された映像画面に合わせて再びルールを設定して[すべてのデータを削除]をクリックしてキュー管理検索に使用される過去のデータを削除することをお勧めします。
 - [ビデオ&オーディオ]>[ビデオ設定]>[ビデオ回転]で設定値を変更した場合
-

検索

ヒートマップは時間フローによる移動体の移動や留まる頻度をカラーで表示します。ヒートマップの「検索」では、ヒートマップデータを検索して結果を確認することができます。

参考事項

- ヒートマップの検索機能を使用するには、まず[統計]>[ヒートマップ]>[設定]で[ヒートマップを有効にする]を選択してヒートマップ機能を有効にする必要があります。

ヒートマップ

画面に現在映像のモーション頻度によるヒートマップ情報が表示されます。画面に表示されたカラー別のモーション頻度は[インデックス]のカラーを参照してください。

インデックス

インデックスのカラー棒はモーション頻度を表示します。モーション頻度が低いほど青色に表示され、高いほど赤色に表示されます。

検索

日付や検索基準値を設定できます。

日付

[直近]を選択すると直近一日、一週、一カ月単位で検索することができます。[期間]を選択すると、日次、月次、年次単位で期間を指定して検索することができます。ヒートマップの検索結果が画面にすぐ表示されます。

検索基準値

[自動]を選択すると、検索区間内の最大モーション頻度数を基準にヒートマップのカラーを正規化します。
[手動]を選択すると、正規化の基準値をユーザーが指定できます。

ヒートマップ検索&結果確認

- [検索]の[日付]で検索する日付を選択します。
- [検索]ボタンをクリックします。
- [結果]に検索結果が表示されます。

結果

ヒートマップデータを検索した場合、結果が表示されます。検索を実行した時点の映像を背景に検索した期間のヒートマップ情報を表示します。

参考事項

- 検索されるデータは、15分ごとに更新されます。本検索結果は、[設定]ページで表示されるリアルタイム結果と異なる場合があります。

ダウンロード

検索実行後、[ダウンロード]ボタンをクリックすると、検索結果を画像ファイルにダウンロードすることができます。pngタイプでダウンロードすることができます。ダウンロードしたファイルは各ブラウザの基本保存パスに保存されます。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

設定

ヒートマップは画面でのモーション頻度を色に表示します。ヒートマップの「設定」では、背景映像の色を設定してヒートマップデータを収集する時に除外するエリアを設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

参考事項

- ヒートマップ機能は、リアルタイムの正確度ではなく統計的なデータ提供を目的とし、移動する物事や動物も測定人数に含まれます。
- 下記の場合には、測定されたデータの誤差が大きくなる場合があります。
 - 十分に視野が確保されないスペースに設置した場合
 - 夜間&低照度環境
 - 急激な照明変更が発生する環境や直射光線、日の入り、日の出、直接照明などのように強い光に影響される場合
 - 出入口周囲のように固定された位置で持続的なモーションがある場合
 - 複数の人が集まって移動する場合

設定

ヒートマップを有効にする

ヒートマップ機能を有効にするためには、[ヒートマップを有効にする]を選択します。

設定

ヒートマップの背景映像の色を設定します。

背景カラー

ヒートマップのデータを表示する背景映像の色を選択します。[カラー]を選択すると、背景映像がカラー映像に表示され[白黒]を選択すると、背景映像がB/W映像に表示されます。

除外エリア

ユーザーが指定したエリアでのモーションはヒートマップの情報として収集されません。

除外エリア設定

映像の上にマウスで頂点4つを選択すると、除外エリアが設定され[ROIエリア]の数字ボタン色が変更されます。除外エリアは最大4まで設定することができます。

除外エリア変更

除外エリアの頂点や線をクリックした後、動かして除外エリアのサイズを変更することができます。除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ROIエリア

[ROIエリア]の数字ボタン色をクリックすると、該当エリアが映像から選択されます。選択されたエリアは、白色の太枠に表示されます。

レポート

有効

周期的にヒートマップデータをE-mailとFTPに受信するには、[有効]を選択します。

FTPとE-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[\[FTP/Eメール\]](#)で行うことができます。

スケジュール

毎日同じ時間にヒートマップデータを受信するには、[日次]を選択してから時間を選択します。

毎週同じ曜日と時間にヒートマップデータを受信するには、[週次]を選択してから曜日と時間を選択します。

ファイル名

FTPサーバーやE-mailでヒートマップデータを送るファイル名を入力してファイルタイプを選択します。ファイル名はローマ字と数字を含み、最大64文字まで入力することができます。

全データを削除

ヒートマップデータをすべて削除するには、[\[全データを削除\]](#)をクリックします。

参考事項

- 下記の場合、変更された映像画面に合わせて再びルールを設定して[\[全データを削除\]](#)をクリックしてヒートマップ検索に使用される過去のデータを削除することをお勧めします。
 - [\[ビデオ&オーディオ\]](#) > [\[ビデオ設定\]](#) > [\[ビデオ回転\]](#)で設定値を変更した場合

データサーバー設定

Retail Insightサーバーを登録すると、登録されたサーバーにカメラのデータ情報(人数カウント、キュー管理、ヒートマップ情報)をサーバーに伝送します。[データサーバー設定]ページでは、Retail Insightサーバー情報を入力して登録することができます。入力を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

データサーバー設定

データサーバー使用

カメラのデータ情報をRetail Insightサーバーに伝送するためには、[データサーバー使用]を選択します。

ログイン

Retail Insightサーバーを登録するためにサーバー情報入力することができます。

IP

Retail InsightサーバーのIPアドレスを入力します。

参考事項

- [IP]入力フィールドの横にあるサーバーとの接続状況を示すメッセージが表示されます。
 - アクセス中：Retail Insightサーバーにアクセスしている時に表示されます。ページの下にある[適用]ボタンをクリックしたり、[データサーバー使用]を選択すると、サーバーにアクセスします。
 - 成功：Retail Insightサーバーにアクセスされた時に表示されます。
 - 失敗：Retail Insightサーバーにアクセスできなかった時に表示されます。メッセージが表示される場合、[データサーバー設定]ページで入力したRetail Insightサーバー情報が正しいか確認してください。

ポート

Retail Insightサーバーのポート値を入力します。

ポート値は、80または1024から65535までの値を使用することができます。

ID

Retail InsightサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。

IDは、最大8文字まで入力することができます。特殊文字#%&+=\:<>'は使用できません。

パスワード

Retail Insightサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。

パスワードは、最小8文字から20文字まで入力することができます。特殊文字#%&+=\:<>'は使用できません。

ストア名

ストア名を入力します。

ストア名は、Retail Insightサーバーでカメラを区分するために使用されます。

製品情報

製品の型名、製造番号の確認やデバイス名、位置、詳細情報、言語などを設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

製品情報

型名

使用している製品の型名です。型名は確認だけ可能で変更することはできません。

製造番号

使用している製品の製造番号です。製造番号は確認だけ可能で変更することはできません。

デバイス名

使用している製品のデバイス名を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、カメラを区分するためにデバイス名を別々に入力することをお勧めします。

位置

使用している製品の設置位置を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、設置位置を区分するために設置位置を別々に入力することをお勧めします。

詳細情報

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。設置日時、画面が表示する場所など他の必要情報に対して入力します。

メモ

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。詳細情報部分に書けなかった他の必要情報に対して入力します。

言語

使用している製品の言語を選択することができます。言語を選択して適用をクリックすると、すべてのUIが該当言語に変更されます。

オープンソースライセンス

本製品で使用しているオープンソースライセンス情報を提供します。[ビュー]ボタンをクリックすると、本製品で使用しているオープンソースライセンス情報とライセンス全文を確認することができます。

参考事項

- 「デバイス名」項目は#"&+:<>=\\%*を外した特殊文字、韓国語、ローマ字の大文字&小文字、数字を入力することができます。最大8文字まで入力することができます。
 - 「位置」、「詳細情報」、「メモ」項目はローマ字&数字、特殊文字~`!@\$^()_-|{};,:./?とスペースだけ入力することができます。最大32文字まで入力できます。
-

アップグレード/再起動

使用する製品のソフトウェアをアップグレードしたり出荷条件初期化することができます。また設定をエクスポートしてリストアしたりリスタートすることができます。

アップグレード

新しいバージョンのファームウェアが配布されたら現在使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。また、以前のバージョンにダウングレードすることもできます。

ソフトウェア

使用している製品のソフトウェアバージョンです。ソフトウェアバージョンは確認だけ可能で変更することはできません。

[詳細情報]ボタンをクリックすると、ソフトウェアに適用されたISPバージョンやSUNAPIバージョンを含めたソフトウェア詳細情報を確認することができます。

ソフトウェア・アップグレード

使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。ソフトウェアをアップグレードするには、[...]ボタンをクリックします。アップグレードファイルを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。[アップグレード]ボタンをクリックすると、アップグレードを開始します。アップグレードの進行状況を%で確認することができます。アップグレードが完了すると、カメラが再起動されて自動的にアクセスが切断されます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

参考事項

- アップグレードは最大10分ぐらいかかります。アップグレードをしている間には、強制にプログラムを終了しないでください。正しくアップグレードされない場合があります。
- ソフトウェアをアップグレードした後、再アクセスする時にブラウザのキャッシュをすべて削除しないとウェブビューアー機能が正しく動作しないことがあります。
- 最新のソフトウェアバージョンは、Hanwha Visionのウェブサイト (<http://www.hanwhavision.com> (<http://www.hanwhavision.com>)) でダウンロードすることができます。

工場出荷状態に初期化

システム設定を製品を購入した当時の設定に初期化することができます。[初期化]ボタンをクリックした後、確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックすると出荷条件初期化を行います。(但し、ログは初期化されません。)

出荷条件初期化を行うとき、ネットワーク設定を除外して他の設定だけを出荷条件初期化するためには、[ネットワーク設定&オープンプラットフォーム設定維持]を選択します。出荷条件初期化を進行すると、カメラとのアクセスが切断されます。

ウェブビューアーに初回アクセスする時にパスワードを再設定する必要があります。

設定バックアップ/復元 現在、カメラ設定をバックアップして保存した後にお望みの設定にリストアすることができます。お望みの設定のバックアップファイルを複数生成した後、製品の使用用途または環境によってお望みの設定にリストアして使用することができます。

バックアップ

[バックアップ]ボタンをクリックすると、「型名Config.bin」ファイルタイプにバックアップファイルが生成されます。

リストア

[リストア]ボタンをクリックすると、リストアするバックアップファイルを選択するポップアップが表示されます。バックアップファイルを選択して[開く]ボタンを押すと、該当リストアファイルを基準に設定がリストアされます。

参考事項

- 設定をリストアすると、カメラとのアクセスが自動に切断されウェブビューアーに再アクセスする必要があります。
- 使用している製品と同じ型名ではない違う型名のバックアップファイルを読み込んでリストアに使用する場合、機能差で製品が誤動作することがあります。他型名のバックアップファイルをリストアに使用せずに手動で設定を変更します。

再起動

カメラのシステムをリスタートすることができます。[再起動]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。カメラがリスタートされ、ウェブビューアーが閉じられます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

ログ

カメラと関連されたログを確認することができます。カメラアクセス、システム変動事項、発生したイベント情報をログで確認することができます。ログタイプ別にログ情報をエクスポートすることができます。

参考事項

一つのページで確認できる最大ログ数は15件です。
直近に発生したログから確認することができます。
各々のログは最大1000件まで保存されます。
保存されたログが1000件を超えると、最も古いログから削除してから新しいログを保存します。

アクセスログ

アクセスしたアカウント別にログイン、ログアウト情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラにアクセスしたアカウントとログイン、ログアウトした日付と時間情報を確認することができます。Allを選択すると、アクセスしたすべてのIDのログイン、ログアウト有無、日付&時間、詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。アクセスログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

システムログ

システム変動事項に対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラシステム設定変更情報を日付、時間と共に確認することができます。Allを選択すると、すべてのシステム変動事項に対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。システムログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

イベントログ

システムで発生したイベントに対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

選択したイベントの発生日付、時間と詳細情報を確認することができます。Allを選択すると、システムで発生したすべてのイベントに対して日付&時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにエクスポートすることができます。イベントログをエクスポートするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_エクスポートした日付時間情報に表示されます。

オープンプラットフォーム

カメラに追加でアプリケーションをインストールすると、既存の機能の他にも追加でインストールしたアプリケーションの機能を使用することができます。

参考事項

ウェブビューアの右上にある[アプリ]をクリックすると、カメラにインストールされた全てのアプリケーションのリストを確認できます。[アプリケーションへ]をクリックすると、該当アプリケーションの設定画面に移動します。

オープンプラットフォーム

オープンプラットフォーム設置

1. [...]ボタンをクリックしてアプリケーションを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。
2. [インストール]ボタンをクリックします。アプリケーションをインストールしたら「インストール済み」というメッセージが表示され、インストールしたアプリケーションの情報がリストに表示されます。

番号

アプリケーションをインストールした手順にNo.が与えられます。

アプリケーション名

アプリケーション名、インストール日時、バージョンが表示されます。

- アンインストール：現在動作しているか、インストールしたアプリケーションを削除します。
- アプリケーションへ：各アプリケーションで提供する画面に移動します。

ステータス

アプリケーションの実行状況を表示します。

アプリケーションが動作中だと「実行中」が表示され、アプリケーションが動作しないと「終了」が表示されます。

- 開始時間：インストールしたアプリケーションを実行します。
- 中止：実行中のアプリケーションを中止します。
- 実行状況：現在、実行中のアプリケーションの資源占有率、生成したスレッドカウント&切替感度などを表示します。アプリケーションが実行中の時のみ有効になります。

設定

アプリケーションの実行優先順位とオートラン有無を設定します。設定した後、[適用]ボタンをクリックしてください。

- 優先順位：実行中のアプリケーション間の優先順位を設定します。全体カメラの資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)が高くなる場合、

実行中のアプリケーションを強制終了します。この時、ユーザーが「低」に設定したアプリケーション順に強制終了します。

- 自動実行：[有効]を選択すると、カメラ電源&メインタスクを実行する時にアプリケーションが自動的に実行されます。

アプリケーション管理者

現在、カメラで動作中のアプリケーションの資源占有率を表示します。

- アプリケーション名：アプリケーション名です。
- メモリ使用量(%)：各アプリケーションのメモリ占有率です。
- CPU使用量(%)：各アプリケーションのCPU占有率です。
- スレッド数：各アプリケーションが生成するスレッドカウントです。
- 実行時間：各アプリケーションの合計切替感度です。
- 動作：各アプリケーションの動作状況です。アプリケーションの実行を中止するには、[アプリの終了]をクリックします。
- メモリ使用率：カメラで現在使用中の全体資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)です。
- 全体：現在実行中のアプリケーションの数を示します。

参考事項

- アプリケーションのインストール&使用に関するお問い合わせは、Hanwha Vision開発者サイト(<http://step.hanwha-security.com> (<http://step.hanwha-security.com>))にお問い合わせください。

